

第 2 次江田島市総合計画 ～素案～

市民満足度の高い
まちづくり



未来を切り開く
まちづくり

平成 2 6 年 1 1 月
江 田 島 市

(表紙裏：白)

見返し

(中扉)

第2次江田島市総合計画

(中扉裏：白)

はじめに

(市長あいさつ)

平成27年3月

江田島市長

田中 達美

～目 次～

はじめに

第1編 基本構想

第1章 計画策定に当たって	8
第1節 計画策定の位置づけ	8
第2節 計画の期間	8
第3節 計画の構成	9
第4節 まちづくりを取り巻く状況と課題	10
第5節 合併後の10年を振り返って	13
第6節 まちづくりの課題	14
第2章 まちづくりの基本指針	15
第1節 計画推進の条件整備	15
第2節 10年後の目指す姿	16
第3節 まちづくりの基本戦略	18
第4節 施策体系	19
第3章 市民満足度の高いまちづくり	20
第1節 施策の方向	20
第2節 部門ごとの方向	21
第3節 数値目標	28
第4章 未来を切り開くまちづくり	30
第1節 施策の方向	30
第2節 数値目標	32
第5章 土地利用構想	34
第1節 拠点の整備	34
第2節 江田島市の魅力と活力を高めるゾーン	34
第3節 交流ネットワーク軸の形成	35

第2編 基本計画

第1部 部門別計画～市民満足度の高いまちづくり～

第1章 教育・文化部門 ～人が育ち、輝くまち～	37
第1節 学校教育の充実	38
第2節 生涯学習の充実	40
第3節 スポーツの振興	42
第2章 産業・観光部門 ～元気な産業・観光を生み出すまち～	43
第1節 農林業の振興	44
第2節 水産業の振興	46
第3節 商工業の振興	48
第4節 観光の振興	50

第3章 福祉・保健部門 ～健康で安心して暮らせるまち～	51
第1節 子育て環境の充実	52
第2節 保健・医療の充実	53
第3節 高齢者福祉・介護の充実	54
第4節 障害者福祉の充実	56
第5節 社会福祉の充実	57
第4章 生活・環境部門 ～生活と環境を守り、高めるまち～	59
第1節 人権尊重と男女共同参画の推進	60
第2節 公衆衛生の確保	61
第3節 自然環境の保全	62
第5章 安全・安心部門 ～災害に強く、安心して暮らせるまち～	63
第1節 大規模災害時の危機管理	64
第2節 総合的な消防体制の充実・強化	66
第3節 暮らしの安全の確保	68
第6章 基盤部門 ～しっかりとした基盤を備えたまち～	69
第1節 都市基盤の整備	70
第2節 生活基盤の整備	73
第3節 生活交通の確保・充実	76
第7章 地域部門 ～地域が元気で、にぎやかなまち～	77
第1節 都市との交流・定住の促進	78
第2節 コミュニティの振興	79
第2部 未来を切り開くまちづくりプロジェクト	
第1章 未来を切り開くまちづくりプロジェクトの設定	82
第2章 『え・た・じ・ま』プロジェクトの展開	84
第1節 「絵になる島」づくりプロジェクト	84
第2節 「楽しめる島」づくりプロジェクト	86
第3節 「自慢できる島」づくりプロジェクト	88
第4節 「また来たい島」づくりプロジェクト	90
資料編	
I 江田島市総合計画策定審議会	93
II 計画策定体制	
I まちづくりアンケート調査結果の概要	

(頁調整：白)

第1編 基本構想

第1章 計画策定に当たって

第1節 計画策定の位置づけ

江田島市は、平成16年11月1日、江田島町、能美町、沖美町及び大柿町の合併により誕生し、この間、「自然との共生・都市との交流による『海生交流都市』えたじま」を都市像に掲げ、まちづくりに取り組んできました。

これまでのおよそ10年間においては、人口の減少と少子高齢化がさらに進み、産業や雇用などにおいて厳しい状況が続くとともに、地方分権改革など自治体を取り巻く環境も変化しています。

こうした状況を踏まえ、江田島市の目指す姿や取組などを市民と共有し、ともにまちづくりを推し進めるため、新たに第2次江田島市総合計画を策定します。

本計画は、江田島市の市政運営の根本となる計画であるとともに、市民の参加と協働を進め、市民が主役となったまちづくりを目指すものです。また、市外に対して、江田島市への関心を喚起し、観光振興や交流・定住の促進、地域を超えた人と人のネットワークづくりなどに資することも目的としています。

第2節 計画の期間

本計画の計画期間は、平成27年度から平成36年度の10年間とします。

ただし、実施計画は5年間を単位とし、毎年定期的に計画と実績などについて検討を行い、必要に応じて計画を見直していきます。

■第2次江田島市総合計画と計画の期間

区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度
基本構想	基本構想 平成27年度～平成36年度									
基本計画	基本計画 平成27年度～平成36年度									
実施計画	実施計画 (平成27年度～平成31年度)					※計画期間は5年間とし、毎年度ローリング				

第3節 計画の構成

本計画は、将来の長期的な展望の下に市政のあらゆる分野を対象とした総合的かつ計画的なまちづくりの指針であり、基本構想、基本計画及び実施計画によって構成します。

●基本構想

江田島市のまちづくりの基本的な理念であり、都市像及び将来の基本目標を示し、基本計画及び実施計画の基礎になります。

●基本計画

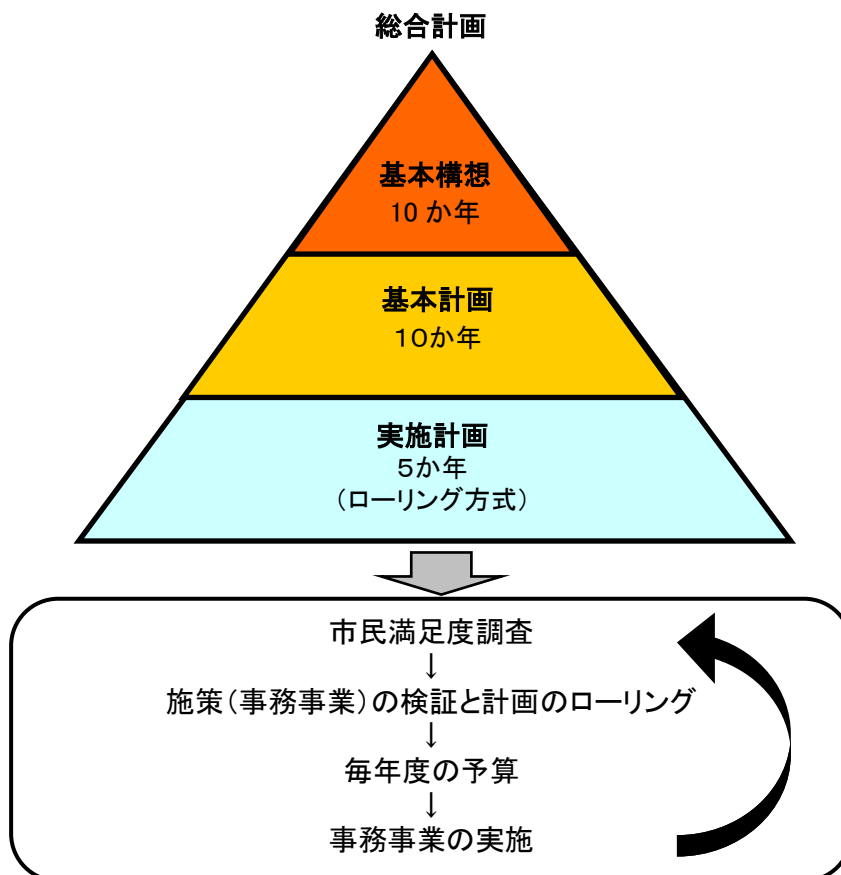
基本構想を達成するために具体的な施策などを体系的に示すものです。

●実施計画

基本計画の実施のために、必要な事務事業を明らかにする中期計画です。

毎年度、市民満足度調査を実施し、施策（事務事業）の検証と計画のローリングを行い、現実に即した弾力的な対応を図ります。

【総合計画の構成と展開】



※市民満足度調査

主として施策ごとに、現状や施策に対する満足度及び今後の施策に対する重要度について聞く、市民を対象としたアンケート調査。

※ローリング方式

計画を実施しながら、毎年定期的に計画と実績などについて検討を行い、必要に応じて計画を見直す方法。

第4節 まちづくりを取り巻く状況と課題

1 人口減少・少子高齢社会の到来

我が国は、すでに人口減少社会に入り、今世紀半ばには1億人を割り込むと推計されています。合わせて、より一層少子高齢化が進み、今世紀半ばには3人に1人が65歳以上となる「超高齢社会」になると予測されています。

江田島市は、さらに人口減少、少子高齢化が進むと推計されており、このままの現状で推移すれば、平成37年には人口は2万人を割り込み(19,860人)、65歳以上の高齢人口の割合は44%に達すると予想されています。

こうした状況を踏まえ、子育てしやすい環境づくりや高齢者への福祉の充実などに取り組むとともに、少人数を対象としたきめ細かい教育による学力の向上や、元気な高齢者の知識や技能を活用した地域の活性化など、人口減少・少子高齢社会をプラスに転じる施策を考えていく必要があります。

2 グローバル化の進展

情報通信技術や交通・輸送手段の発達などにより、人やもの、資本、情報等が国境を越えて移動するグローバル化が進んでおり、今後とも観光や就業を目的とした外国人の訪日の増加が見込まれます。

また、海外市場の中心は、広大な国土、豊富な天然資源、多くの人口を有する中国、インドなどの新興国、開発途上国にシフトしつつあり、製造業を中心とした国内産業の空洞化が懸念されています。

さらに、TPP(環太平洋パートナーシップ協定)の締結の可能性があります。その場合、輸出額の増大などのメリットの一方で、海外からの安い農林水産物の流入により、国内の農林水産業が大きなダメージを受ける可能性が指摘されています。

こうした状況を踏まえ、江田島市においても、外国人と市民の相互理解と交流を促進し、外国人も安心して暮らせる環境を整備していく必要があります。

また、地域の雇用を維持していくためには、既存産業の高付加価値化や新産業の創出などに加え、外国人観光客の誘致や海外市場をにらんだものづくり、販路開拓などについても長期的な戦略を持って取り組んでいく必要があります。

※グローバル化(グローバリゼーション)

地球規模化。ものごとの規模が国家の枠組みを越え、地球全体に拡大すること。

「国際化」は国家を前提としたものであるのに対し、「地球規模化」は国家を前提としていません。

※TPP(Trans-Pacific Strategic Economic Partnership Agreementの略)

※参考:経済産業省HP

アジア太平洋自由貿易圏に向けた道筋の中で実際に交渉が開始されており、アジア太平洋地域における高い水準の自由化が目標。

FTA(Free Trade Agreement:自由貿易協定)の基本的な構成要素である物品市場アクセス(物品の関税の撤廃・削減)やサービス貿易のみではなく、非関税分野(投資、競争、知的財産、政府調達等)のルール作りのほか、新しい分野(環境、労働、「分野横断的事項」等)を含む包括的協定として交渉されています。

3 厳しい財政状況

国・地方の双方について集計した「国及び地方の長期債務残高」は、平成 25 年度末に 977 兆円（対 GDP 比 201%）に達する見込みであり、今後 10 年においても、厳しい財政状況は続くと考えられます。

江田島市の財政状況も、平成 27 年度以降は、普通交付税合併算定替の特例措置の段階的な減少により、一層厳しい状況になると予測されます。

このため、今後とも行財政改革に取り組むとともに、選択と集中によって限られた財源を有効に活用し、最大の効果を発揮する努力が必要となります。

4 地方分権の進展

ゆとりと豊かさを実感し、安心して暮らすことのできる社会の実現を目指し、地方分権改革を総合的かつ計画的に推進するための地方分権改革推進法が、平成 19 年 4 月から施行されています。

平成 22 年 6 月には、住民に身近な行政は地方公共団体が自主的かつ総合的に広く担うようにするとともに、地域住民が自らの判断と責任において地域の諸課題に取り組むことを掲げた「地域主権戦略大綱」が閣議決定され、その後、いわゆる地域主権改革一括法（第 1 次～第 3 次）の成立により、義務づけ・枠づけの見直しや基礎自治体への権限移譲が進められています。

都道府県レベルでは、道州制に向けた動きなどもありますが、住民に身近な基礎自治体が重視される地方分権の流れは、今後も変わらないものと予想されます。

江田島市においても、地域の課題解決に向けて、自ら考え、実行していく、自治体としての政策形成能力の強化がますます求められるようになると考えられます。

5 社会資本ストックの老朽化と再編・整備

我が国においては、高度成長期やその直後に集中投資した社会資本ストックの老朽化が急速に進展しています。

こうした中、多くの地方自治体において、今後の公共施設のあり方や再編・整備に関する調査や方針決定が行われています。

江田島市においても、1970 年代に多くの公共施設が整備されており、建設から 30 年以上経過したものが延床面積割合で半数を超えています。

このため、社会資本ストックの長寿命化・延命化等の対応を行うとともに、公共施設の再編・整備や市民・団体の参画を含めた運営管理について具体的な道筋をつけ、着実に実行していくことが求められます。

6 防災意識の高まりと災害に強い国土づくりの進展

平成23年3月の東日本大震災は、観測史上最大のマグニチュード9.0の大地震であり、その後の津波の被害と合わせて、死者・行方不明者1万8千人以上、ピーク時の避難者は40万人以上という未曾有の大災害となりました。

さらに、異常気象等による大規模災害が全国各地で頻繁に発生していることや、東海・東南海・南海連動型地震などの大規模地震の発生も予想されていることから、国民の防災に対する意識はかつてないほどに高まっており、今後、災害に強い国土への再構築が、大規模に進められていくと考えられます。

江田島市においても、ゲリラ豪雨に伴う浸水や崖崩れ、台風による高潮被害などが発生しており、また東南海・南海地震が発生した場合は、県内最大の津波の発生が予測されていることから、最悪の事態を想定し、住民との連携を図り、支え合いのまちづくり等のソフト対策を含め、災害に強いまちづくりを進めていく必要があります。

7 地球規模での環境悪化と循環型社会に向けた取組

現代社会においては、資源やエネルギーを大量に消費し、環境に大きな負荷を与えており、地球環境にも影響を与えています。また、近年、目覚ましい経済成長を遂げている新興国においても大気汚染や水質・土壌の悪化などの環境問題が顕在化しており、地球規模での環境悪化が進んでいます。

こうした中、環境問題の解決に向けて、否応なしに、社会経済システムやライフスタイルそのものを見直し、環境への負荷の少ない持続可能な社会に変革していく動きが進んでいくと考えられます。

江田島市においても、豊かな自然を後世に引き継ぐためには、5R（リデュース：発生抑制、リユース：再利用、リサイクル：再資源化、リフューズ：不要なものは受け取らない、リペア：修理）や省エネの推進、再生可能エネルギーの導入促進など循環型社会に向けた取組を進めていくとともに、環境問題に対する市民一人ひとりの意識を高めていくことが求められます。

8 成熟社会と協働のまちづくりの高まり

人口減少や少子高齢社会を背景に、高度成長期のような大きな成長は見込まれない成熟社会においては、経済的な豊かさよりも心の豊かさ、生活の質を求める方向で、価値観やライフスタイルの多様化・個性化が進んでいくと今後とも想定されます。

こうした状況や観点は、江田島市のまちづくりにおいても重要であり、島という特徴を生かして、都市部における心の豊かさや生活の質を求める流れを、観光振興や定住・交流促進に取り込むことにより、地域の活性化につなげていくことが期待されます。

一方で、個性化・多様化するニーズに行政だけでは対応しきれなくなっていることも事実であり、個性豊かで活力に満ちたまちづくりのためには、市民や各種団体、企業、NPOなどとの協働が不可欠になっています。

定年退職を迎えた団塊の世代を中心に、自らの生活を楽しむだけでなく、地域に自己実現や社会貢献の場を求める人々が、今後、増えてくると予想されます。

こうした流れを取り込みながら、市民と行政が協働してまちづくりに取り組む仕組みを整えていく必要があります。

第5節 合併後の10年を振り返って

1 施策の全体的な評価と課題

(1) 人口

江田島市総合計画では、目標人口（平成26年）を27,000人としています。

国立社会保障・人口問題研究所の人口推計をもとにして算定すると、平成26年には約24,800人になるとされていましたが、定住条件の向上などに取り組むことによって、減少の度合いを押さえることとして、目標人口を設定しています。

しかし、平成25年6月現在の人口は26,165人（住民基本台帳）であり、国立社会保障・人口問題研究所の推計をもとにした人口（平成26年：24,800人）は上回るものの、目標人口（27,000人）を割り込むことが確実な状況です。

(2) 土地利用構想

江田島市の目指す都市構造として、センターゾーンと地域拠点、生活中心地、コミュニティ中心地などを設定し、長期的な視点から、その充実・強化を目指しています。

こうした考え方は、江田島市都市計画マスタープラン（平成23年3月）などに引き継いでおり、今後のまちづくりにおいても基本となります。

一方、広島湾架橋や津久茂架橋など「長期的戦略構想への対応」としていた開発構想については、具体的な動きはみられないのが現状です。

(3) 行財政改革

厳しい財政状況の中、江田島市においては、これまで2次にわたって江田島市行財政改革大綱及び江田島市行財政改革実施計画を策定するなど、行財政改革に取り組んできています。

その結果、地方債残高の減少、職員数の削減などが進みました。

しかし、今後とも厳しい財政状況は続くことが予測されることから、引き続き行財政改革に取り組んでいく必要があります。

(4) 施策・事業の実施状況

江田島市においては、これまで各部門・分野で施策の展開に沿った事業を実施してきており、サイクリングの取組やオリーブのまちづくり、3F（フルーツ・フラワー・フィッシュ）の島づくり、体験型修学旅行の誘致、子育てしやすいまちづくりなど、江田島らしさや特色づくりにつながりつつあります。

一方、人口減少や少子高齢化が進む中、コミュニティの維持・活性化、産業の振興と雇用の場の確保、生活交通の維持・確保、公共施設の再編・整備など、未解決の課題も山積しています。

2 まちづくりに対する市民の意識・意見

(1) 暮らしに対する評価

本計画の策定にあたって実施した市民アンケート調査（平成25年8月）の結果では、「江田島市の住みよさ」という設問に対しては、「住みやすい」（16.3%）と「どちらかというに住みやすい」（27.3%）を加えたプラス的な評価が43.6%となり、「住みにくい」（6.6%）と「どちらかというに住みにくい」（15.6%）を加えた22.2%のマイナス的な評価を上回っています。

また、定住意向に関する設問に対しては、「ずっと住み続けたい」（44.7%）、「当分の間は住み続けたい」（26.8%）が、「市外に移り住みたい」（9.2%）を大きく上回っています。

さらに、江田島市への愛着に関する設問についても、「愛着がある」（35.8%）と「どちらかというに愛着がある」（26.7%）が、「愛着を感じていない」（4.0%）、「あまり愛着を感じていない」（8.1%）を大きく上回っています。

暮らしの現状については比較的プラスの評価がされていると言えます。

(2) 市政に対する評価

「江田島市のスタート時期（10年前）と比べた評価（良くなったかどうか）」という設問に対しては、「良くなった」（4.6%）と「どちらかというに良くなった」（12.7%）を加えたプラス的な評価は、17.3%に留まっているのに対して、「悪くなった」（18.8%）と「やや悪くなった」（23.7%）を加えたマイナス的な評価が42.5%とプラス的な評価を大きく上回っています。

また、「施策（江田島市の取組）に対する市民からみた満足度」という設問に対しては、「とても満足」を100満点とした場合の全体評価は54.2点であり、60点（概ね満足の水準）に届いていません。また、60点（100点満点とした場合）を超えているのは全68項目中、1項目だけで、40点（不満の水準）台の項目もみられ、厳しい評価となっています。

江田島市の問題点という設問に対しては、「交通・移動の制約」（68.1%）、「働く場、魅力」（59.7%）、「医療、救急医療」（50.6%）と上位3番目までを占め、次いで「買い物」（43.4%）と多くなっています。

こうした未解決の課題が市政に対する市民の厳しい評価の原因と考えられます。

第6節 まちづくりの課題

今後10年間、人口減少や少子高齢社会の到来など、社会・経済情勢の見通しは厳しいと言わざるを得ません。また、この10年間でやり残した課題も多く、また、市民の市政に対する評価も決して高いものとは言えない状態です。

その原因としては、この間の長期の景気の低迷による緊縮財政などが挙げられますが、一方で、市民のニーズを十分に把握できていなかったことや施策・事業の選択と集中が不十分であったこと、市民との協働が十分に進まなかったことなどが挙げられます。

こうした点については真摯に受け止め、次の10年間のまちづくりの中で反省点を生かしていく必要があります。

第2章 まちづくりの基本指針

第1節 計画推進の条件整備

まちづくりを進めるうえでは、まず、必要な財源の確保等の条件を整備する必要があります。このため、計画の推進にあたって、次の3つの条件整備に取り組みます。

1 地方分権に対応した地域経営の基盤づくり

今後も住民に身近な基礎自治体への分権が進むと予想される中、厳しい財政状況のもとで、まちづくりを推進していくためには、行政需要に見合った財源の確保を図るとともに、限られた財源と人員を有効に活用し、最小の経費で最大の効果をあげることが求められます。

このため、引き続き、更なる幅広い歳入の確保や、選択と集中による効率的な行財政運営や組織体制の構築、職員の政策形成能力の向上などに取り組むと同時に、施策・事業の進行管理において、経営的な視点を取り入れ、P D C Aサイクル（計画（Plan）・実行（do）・評価（Check）・改善（Act））による点検評価の仕組みを確立します。

2 市民参画による協働のまちづくり

市民ニーズの多様化・高度化などを背景に、行政主導のまちづくりでは、地域の特性を生かしたまちづくりを進めていくことが難しくなっており、個性豊かで活力に満ちたまちづくりを進めるためには、市民や各種団体、企業、NPOなどとの協働が不可欠になっています。

しかしながら、協働のまちづくりは市民に十分に浸透しているとは言えない状況であり、理念・精神を含めて市民の理解を得ていく必要があります。

一方で、今後は、定年退職を迎えた団塊の世代を中心に、自らの生活を楽しむだけでなく、地域に自己実現や社会貢献の場を求める人々が、今後、増えてくると予想されます。

地域に暮らす人々が本当に望むまちづくりを進めていくため、こうした流れも取り込みながら、市民と行政が共通の認識に立って協働してまちづくりに取り組む仕組みを整え、協働から生まれるエネルギーを地域の元気につなげる体制を整えます。

3 広域的な視点に立った交流のまちづくり

江田島市は、広島市や呉市といった都市部と近接し、通勤・通学、買い物、通院といった日常生活においても密接なかかわりを持っています。

人口減少や財政状況を踏まえると、今後は、一部の都市機能については周辺都市と連携することでサービスを確保していくことや、外部からの活力を取り入れる形での地域や産業の振興も視野に入れる必要があると考えられます。

一方で、本市には、海や自然といった周辺都市にはないセールスポイントがあります。心の豊かさ・生活の質を求める時代の変化に対応し、これらの魅力を生かして、広島市や呉市から交流人口を呼び込み、地域のにぎわいにつなげていく必要があります。

こうした点を踏まえ、広島市、呉市など周辺自治体との連携・協力関係を発展させ、広域的な視点に立った施策を展開できる環境を整備します。

第2節 10年後の目指す姿

協働と交流で創り出す『恵み多き島』えたじま

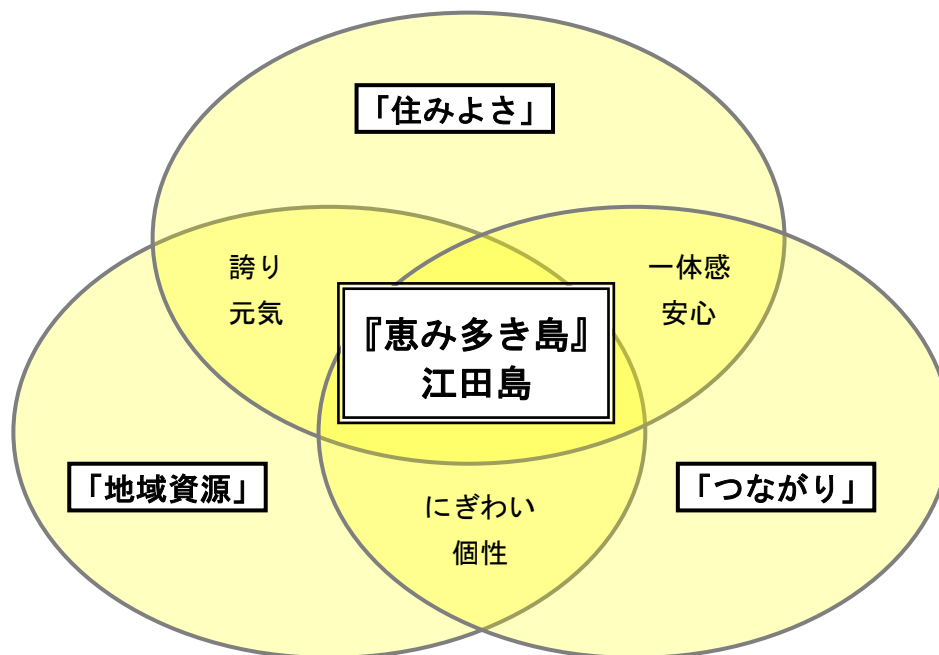
江田島市は、旧海軍兵学校に代表される歴史・文化や島を囲む瀬戸内海をはじめとした豊かな自然、3F（フルーツ・フラワー・フィッシュ）に代表される質の高い一次産品など多くの地域資源に恵まれ、また、人と地域のつながりの残る「恵み多き島」です。

しかし、そのポテンシャルを發揮できていないことで、市民が島の恵みを十分に実感しているとは言い難い状態にあることが、市民アンケート調査の結果からもうかがえます。

このため、本計画では、市内外の人々に島の恵みを実感してもらうことを最終的な目標とし、市民参画による協働と広域的な視点に立った交流をベースに、「協働と交流で創り出す『恵み多き島』えたじま」を、10年後の目指す姿（スローガン）として掲げることとします。

『恵み多き島』とは

『恵み多き島』とは、瀬戸内の美しい海や豊かな自然に囲まれ、市民にとっては、ずっと住み続けたいと思える「住みよさ」を備え、地域の「つながり」や「地域資源」を生かすことによって、一体感や安心、誇りや元気、にぎわいや個性を感じることができる島であり、また、市外の人々からは、訪れてみたい、住んでみたいと感じてもらえるような、魅力あふれる島のことを言います。



【目標人口】

江田島市の人口は、今後とも広島県の平均を上回るペースで減少することが予想されています。地域の活力を維持していくうえで、この傾向に歯止めをかけることが本市における最大の課題と言えます。

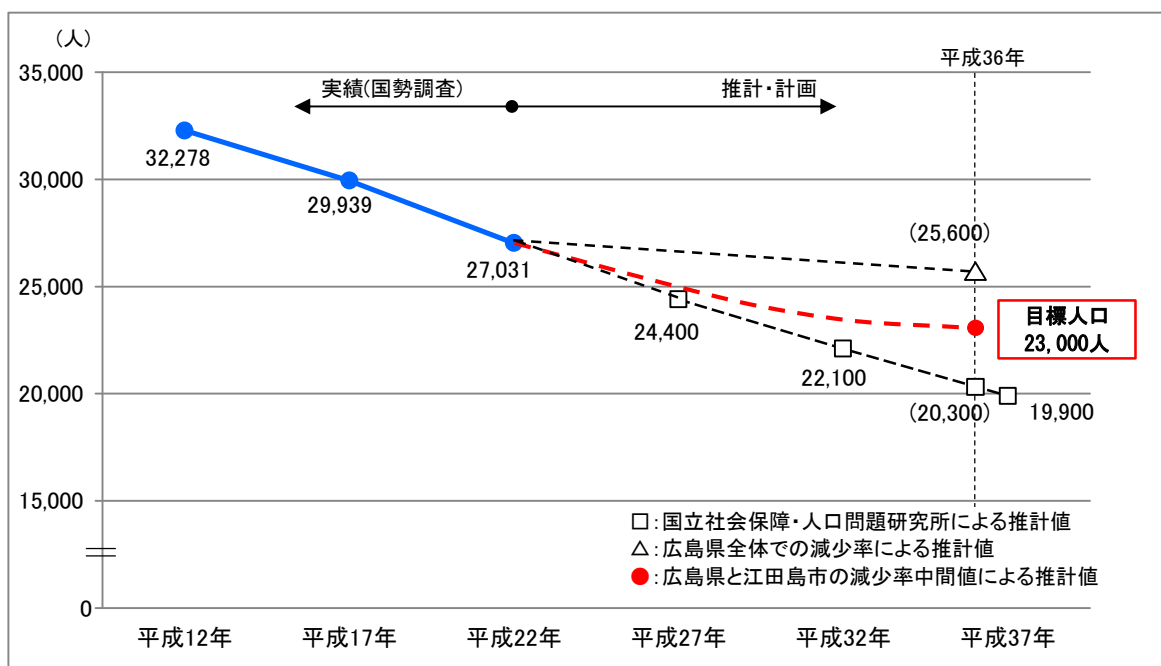
このため、転出の抑制や定住の増加を図り、人口減少に歯止めをかけることを念頭に、10年後の目指す姿『恵み多き島』の目標数値としての目標人口を設定します。

計画期間の最終年度である平成36年度の本市の推計人口は約20,000人です。

『恵み多き島』を実現することにより、計画期間の後半には人口減少率を広島県平均（年△0.4%）まで抑制することを目指し、平成36年度における目標人口を広島県と江田島市の減少率中間値による推計値23,000人とします。

平成36年度における目標人口
23,000人

■人口推移・推計と目標人口



第3節 まちづくりの基本戦略

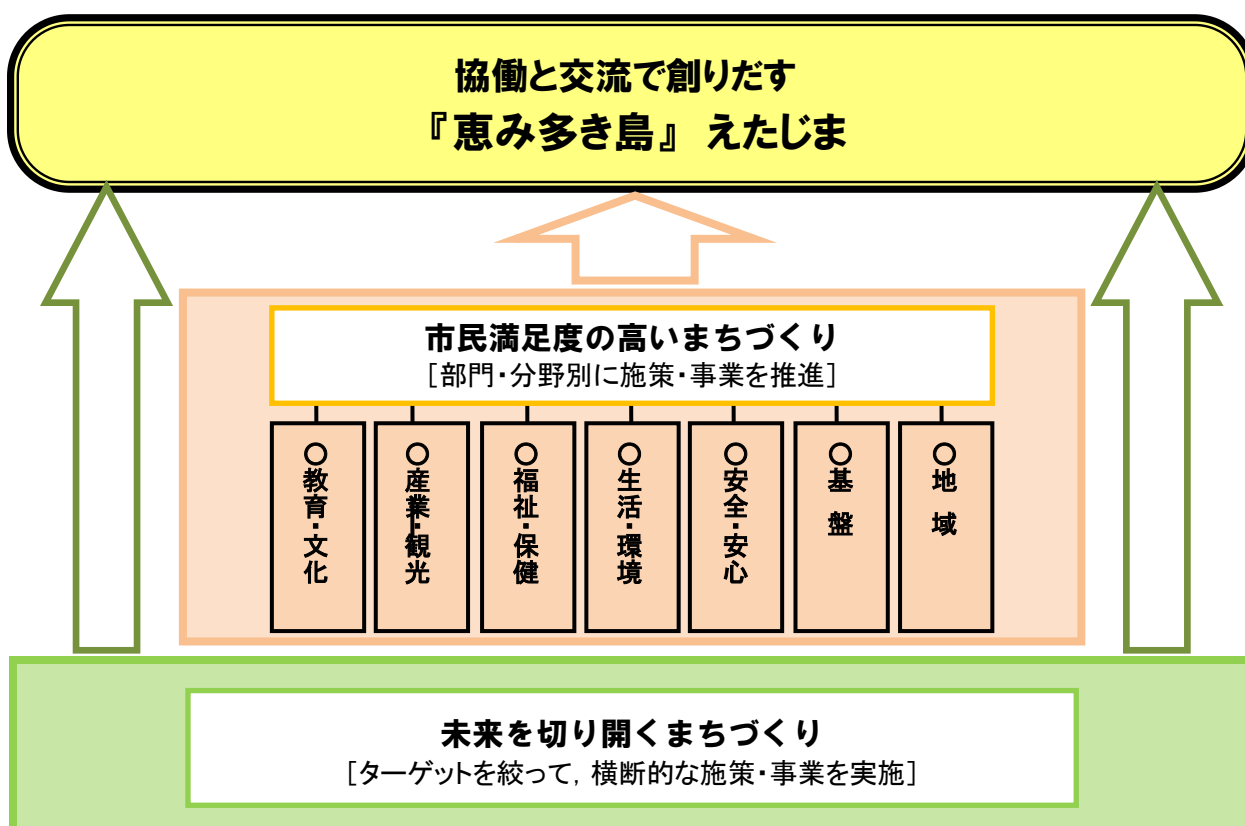
『恵み多き島』を実現するための2つ戦略 「市民満足度の高いまちづくり」 & 「未来を切り開くまちづくり」

『恵み多き島』の実現には、まちづくりを進めるうえでの基本戦略を明確にしておく必要があります。

まちづくりの基本は、一つには、市民ニーズを的確に把握し、現在の課題を解決することによって、地域に暮らす人々の満足度を高めていくことです。つまり、「市民が何を必要としているか」を考え、市民が必要とし、求めている行政サービスを提供していくことです。これは、まちづくりを進めるうえでの正攻法と言えるものであり、本計画においても「市民満足度の高いまちづくり」を第一の戦略として位置づけます。

一方で、直面する課題に対応するだけでは、市の将来展望は開けません。将来に向かって、新たな魅力や価値を生み出していくことでしか市の発展は望めません。つまり、新しい考え方や方法を取り入れることで現状に変化を加え、未来を切り開いていくための戦略も必要になります。この戦略は、いわゆるイノベーションに当たるものであり、実現には困難が伴いますが、実現できれば大きな成果が期待できます。本計画においても「未来を切り開くまちづくり」として、ターゲットを絞ったうえで、もう一つの戦略として取り入れます。

■ 2つの基本戦略の展開イメージ

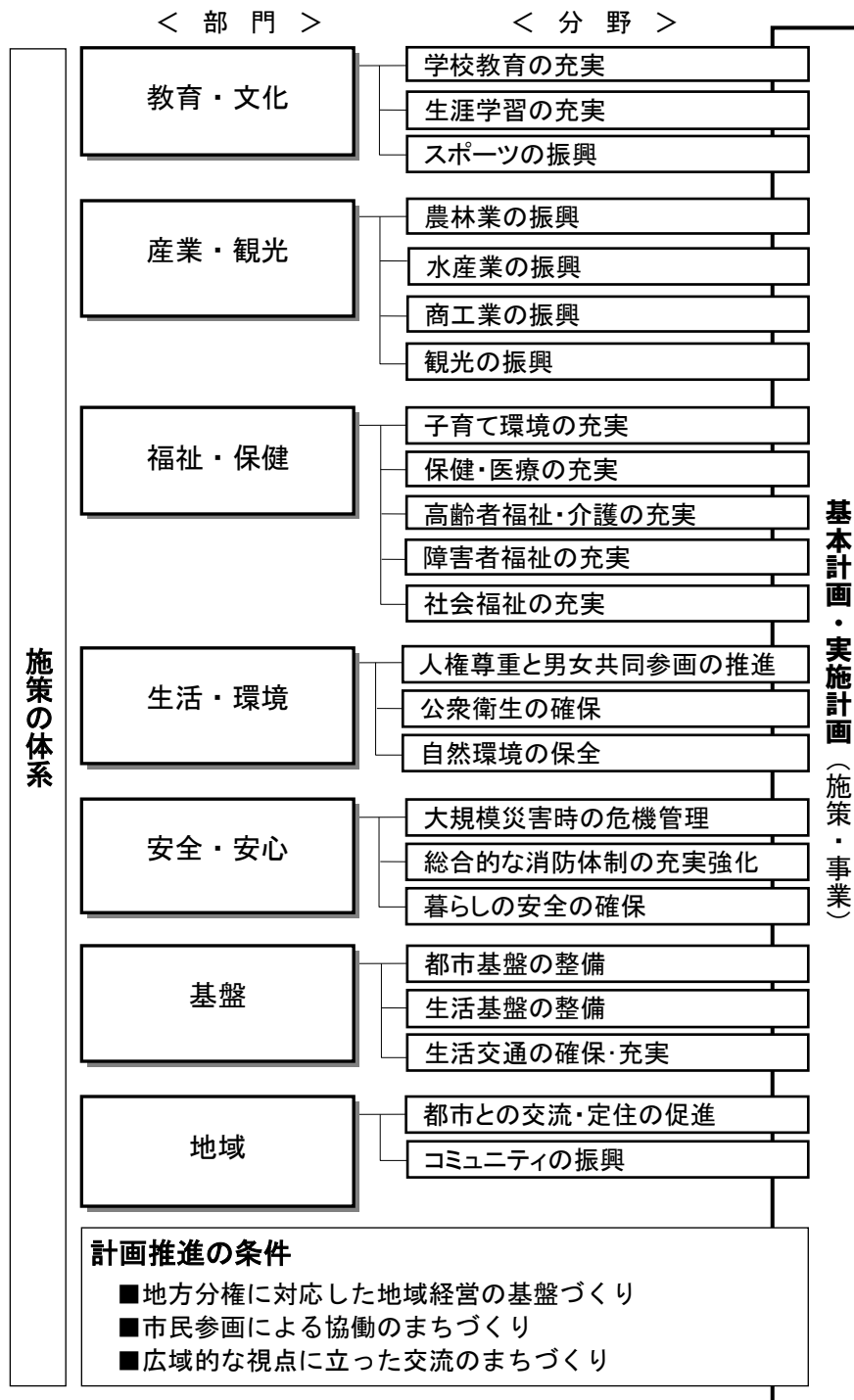


※イノベーション (innovation)

「新機軸」「新しい切り口」新しいアイデアから社会的意義のある新たな価値を創造し、社会的に大きな変化を起こす組織・社会の変革。

第4節 施策体系

『恵み多き島』の実現に向けて、実効性のあるまちづくりを進めるためには、市役所内の部・課等の担当と責任を明確にしておく必要があります。このため、「漏れなく、重複しない」を基本に、施策体系（7部門・23分野）を次のとおり設定します。



第3章 市民満足度の高いまちづくり

第1節 施策の方向

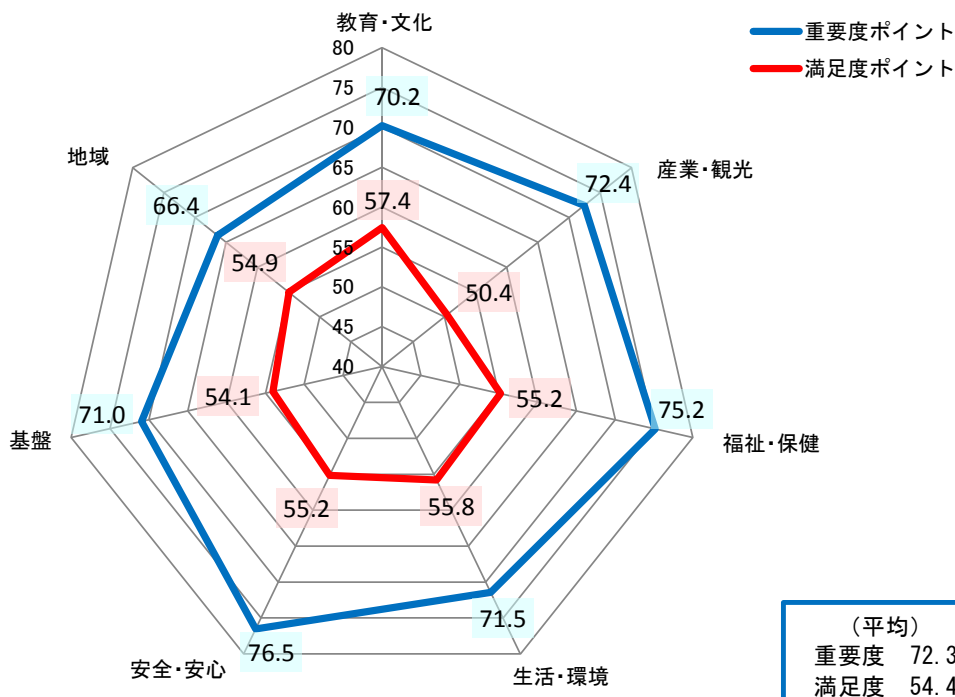
～市民が必要とし、求めているサービスを提供する～

合併から10年、人口の減少に歯止めがかからず、少子・高齢化が進む中、福祉サービスなどに対する行政ニーズは今後も増加していくことが予想されます。これからのまちづくりにおいて、江田島市として、こうした行政ニーズの増加に、いかに効率的・効果的に対応していくかが、最大の課題と言えます。

しかし、今後も厳しい財政状況が予想される中、施策の選択と集中がより一層重要になります。

このため、市民アンケート調査における市民の重要度ポイント・満足度ポイントをもとに、それぞれの部門ごとに方向を定め、そのうえで、市民が必要とし、求めている行政サービスを提供することで、江田島市に暮らす市民が本当に望む、「市民満足度の高いまちづくり」に取り組めます。

■市民アンケート調査における各部門のポイント状況（施策全体及び部門の平均）



※重要度・満足度ポイントは、平成25年度に実施した「江田島市まちづくりアンケート調査」の結果をもとにした数値

■市民満足度・重要度のポイント設定（配点）

満足度ポイント（市民満足度）	重要度ポイント（市民重要度）	配点
とても満足	特に重要	100点
満足	重要	80点
おおむね満足	どちらかという重要	60点
不満	あまり重要でない	40点
とても不満	重要でない	20点

第2節 部門ごとの方向

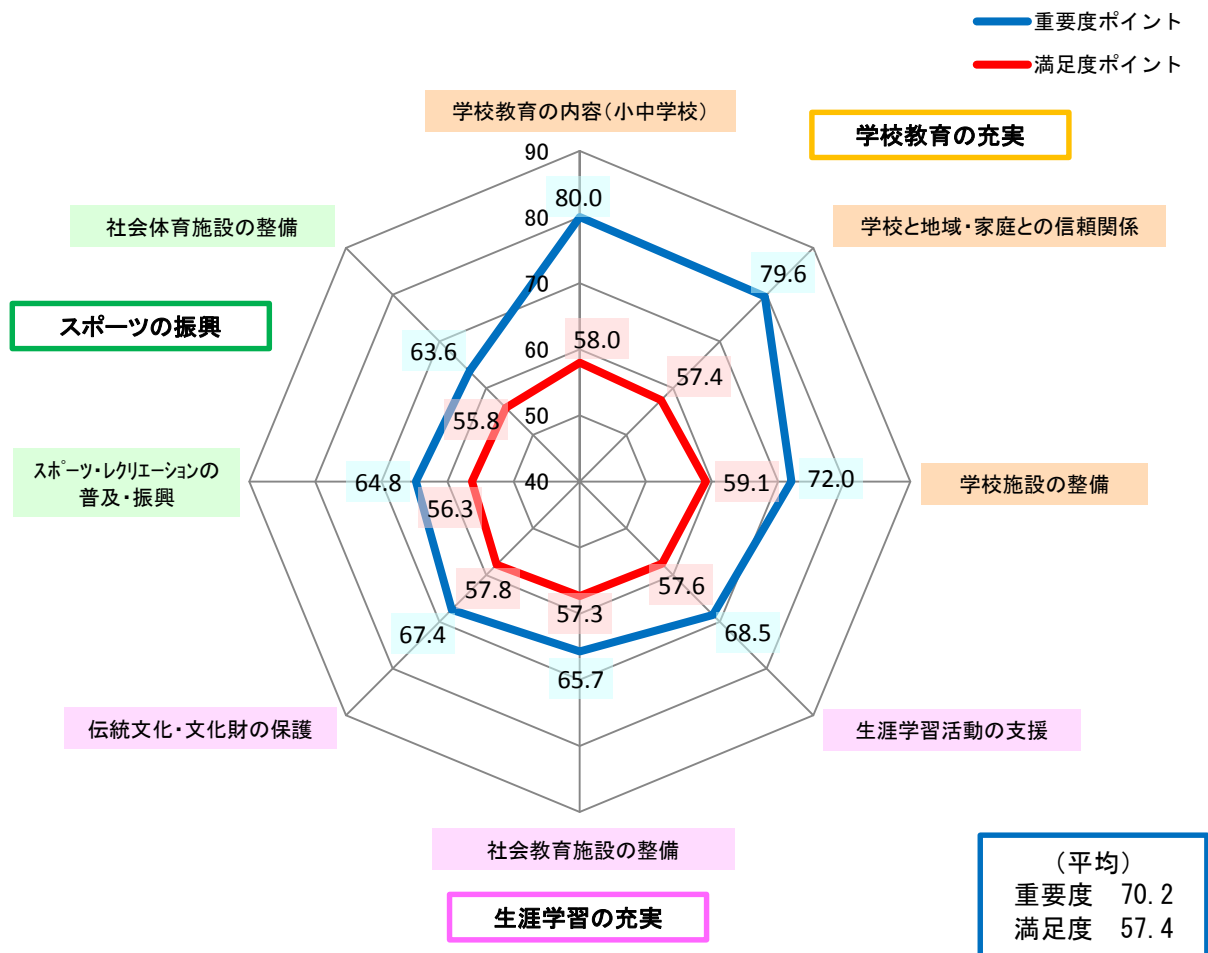
1 教育・文化部門 ～人が育ち、輝くまち～

子どもたちが夢や目標を持って学び、育ち、市民一人ひとりが、生涯を通じて、学び、活動し、生きがいを感じ輝くことは、豊かな暮らしの基盤となります。

このため、学校教育では、児童生徒の生きる力を育むことを目指し、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育成し、その水準の向上に努めます。

また、生涯学習では、公民館活動などの社会教育をはじめ、スポーツ振興における普及・啓発活動や、文化・芸術・スポーツにおける学習機会の確保と教育環境の整備・充実により、「人が育ち、輝くまち」を目指します。

図 教育・文化部門のポイント状況



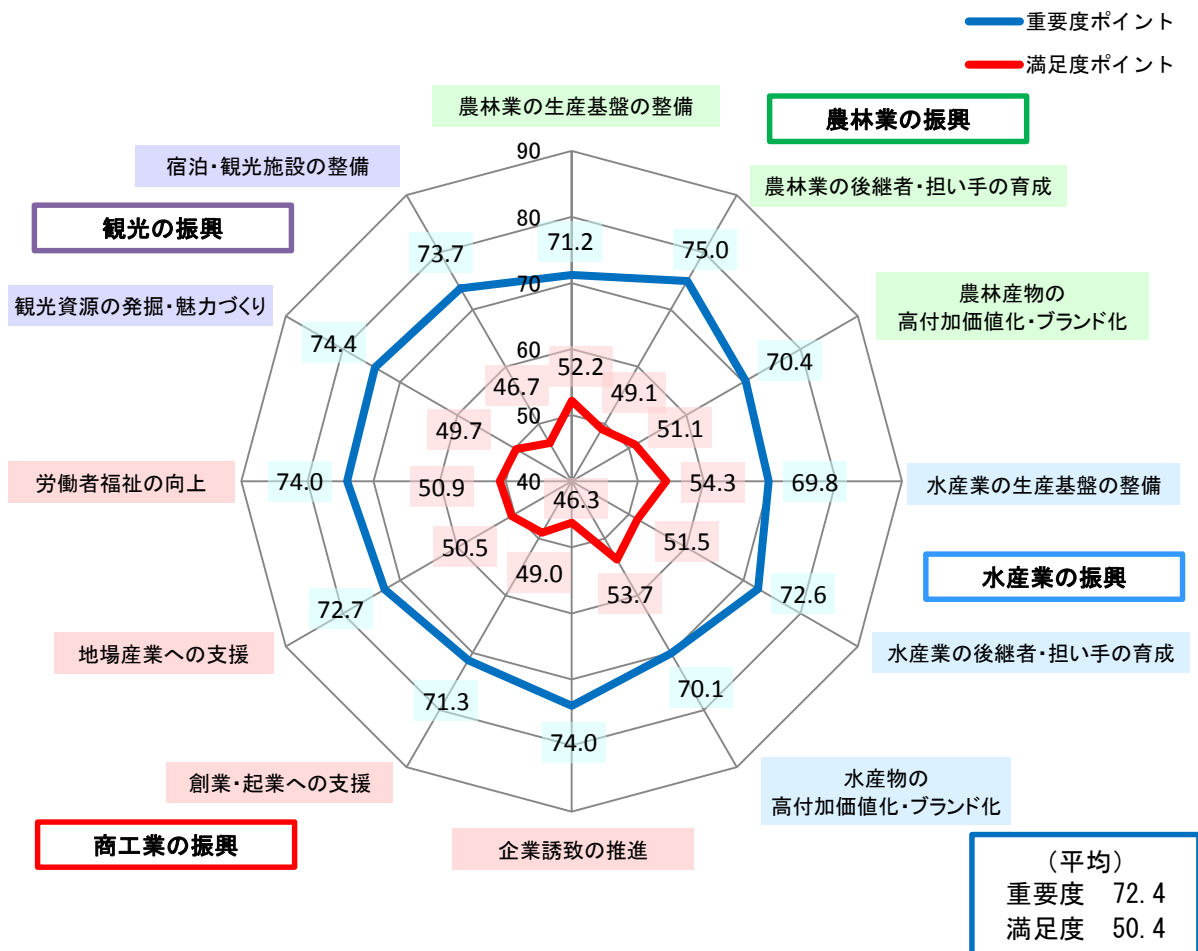
2 産業・観光部門 ～元気な産業・観光を生み出すまち～

農業、水産業、商工業といった地域の産業が元気になり、また、観光などの新たな産業が育ち、地域経済が活性化しないかぎり、過疎化に歯止めがかかることは望めません。

このため、基幹産業である農業・水産業については、これまで取り組んできたオリーブや夏牡蠣などのブランド化・6次化を推進します。また、荒廃農地や有害鳥獣問題、後継者・担い手不足などの課題の解決を進めます。

さらに、コミュニティ・ビジネスの育成や、サイクリングなどアウトドア・自然体験を核とした体験型観光の振興などにより、「元気な産業・観光を生み出すまち」を目指します。

図 産業・観光部門のポイント状況



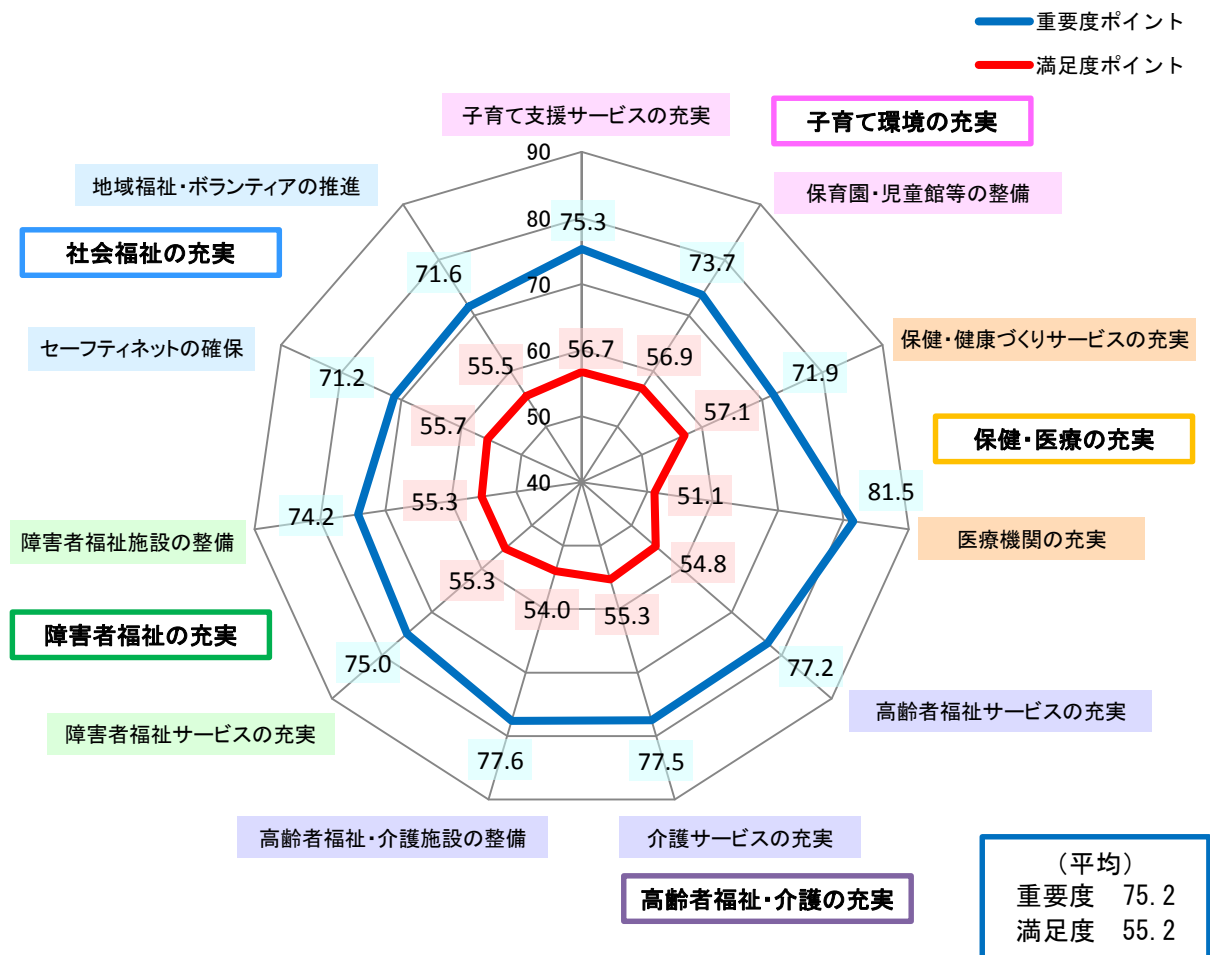
3 福祉・保健部門 ～健康で安心して暮らせるまち～

乳幼児期から高齢期まで、すべての市民が家庭や地域で、元気でいきいきと安心して、日常生活が送れることは、幸せの基本といえます。

このため、市民ニーズなどを踏まえながら、子育て環境や生涯を通じた保健・医療、高齢者福祉・介護、障害者福祉、社会福祉の充実に着実に取り組みます。

特に、子育て支援対策の充実や、専門・救急医療への対応、高齢化の更なる進展に対応した高齢者福祉・介護サービスの確保・充実を進めることにより、「健康で安心して暮らせるまち」を目指します。

図 福祉・保健部門のポイント状況



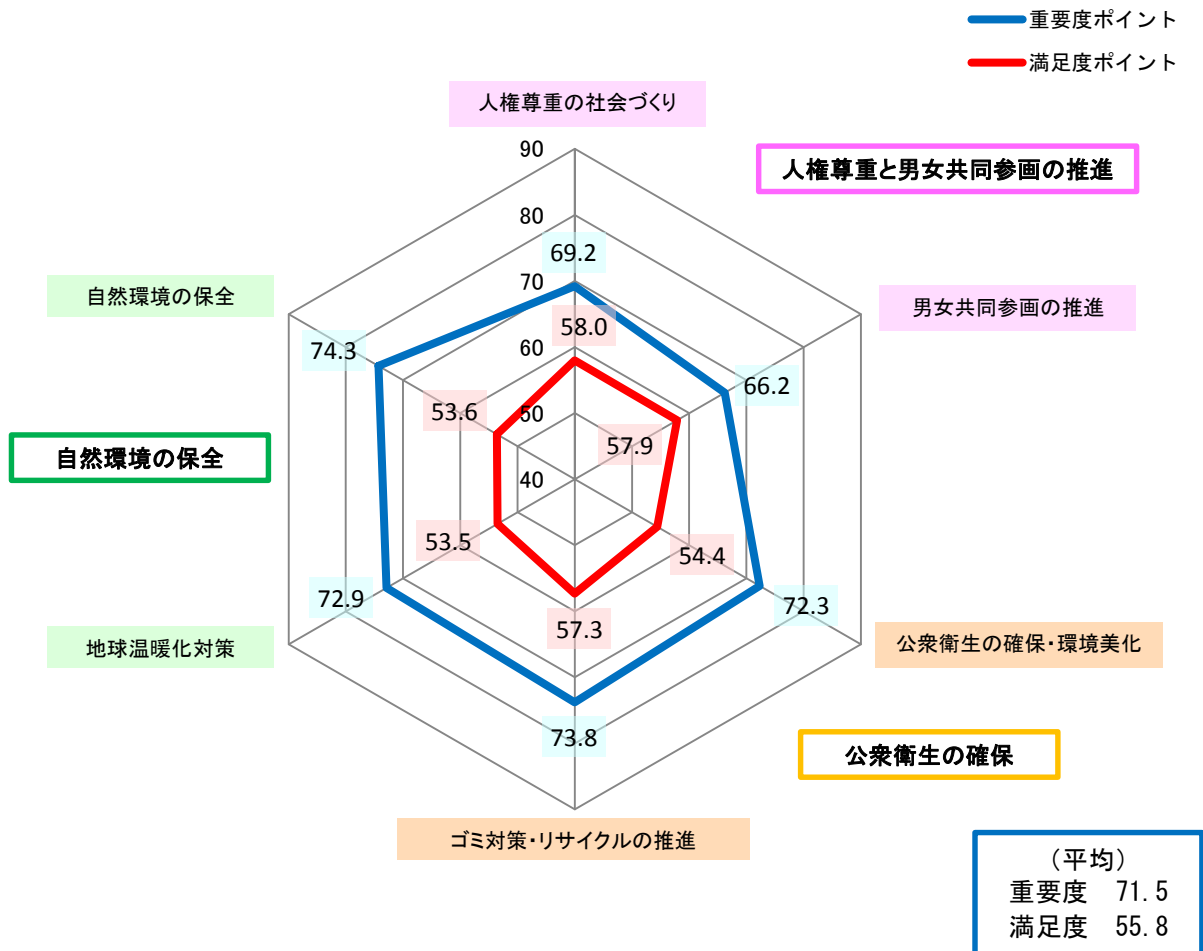
4 生活・環境部門 ～生活と環境を守り、高めるまち～

市民一人ひとりが互いに尊重しあう社会は、まちづくりの基本的な条件です。また、四方を瀬戸内海に囲まれた美しい自然と環境は、江田島市の大切な地域資源です。

このため、引き続き、普及・啓発活動や学び、考える機会を通じて、人権尊重と男女共同参画社会の形成に取り組めます。

さらに、市民との協働による5Rの推進や再生可能エネルギーの導入促進など循環型社会の形成に取り組むとともに、豊かな自然を次世代に引き継ぐため、海ゴミの削減をはじめとした環境美化・自然環境保全活動を推進することにより、「生活と環境を守り、高めるまち」を目指します。

図 生活・環境部門のポイント状況



5 安全・安心部門 ～災害に強く、安心して暮らせるまち～

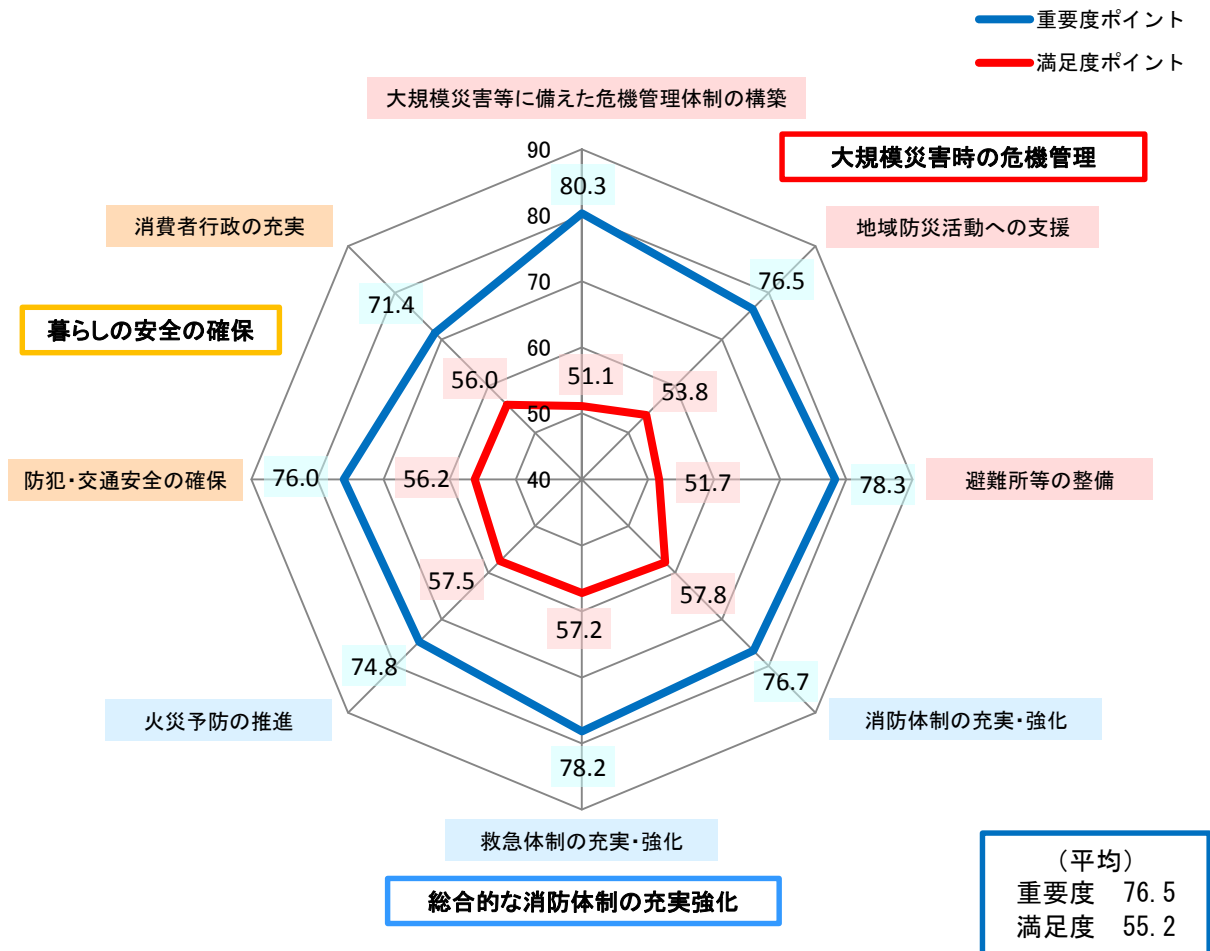
市民生活や都市活動において、万一の災害や事故が発生した場合、地域や行政からの支援は最後の砦であり、日ごろから万全の備えが求められます。

大規模な自然災害等が頻繁に発生している今日的な状況を鑑みながら、大規模災害時等の危機管理や消防・救急体制については、着実に一層の充実・強化を進めていきます。

特に、発生が予想されている東南海・南海地震に備えた避難シミュレーションや避難所等については、早急に体制の整備を進めます。

あわせて、日ごろからの火災予防対策や防犯・交通安全対策，消費者保護などに着実に取り組むことにより、「災害に強く、安心して暮らせるまち」を目指します。

図 安全・安心部門のポイント状況



6 基盤部門 ～しっかりとした基盤を備えたまち～

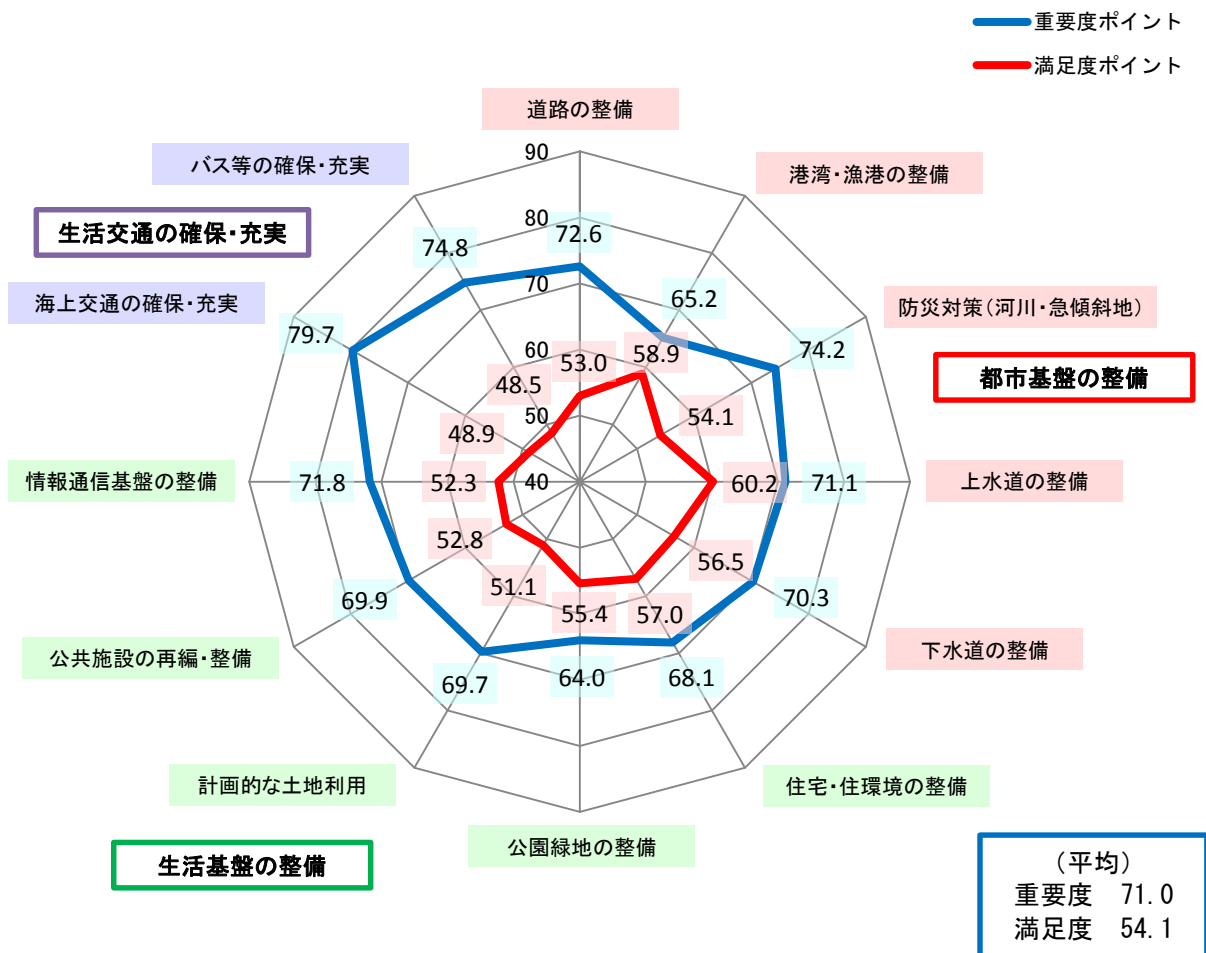
道路や港湾、上下水道などの都市基盤、住宅、公園等の生活基盤、及び生活交通は、市民生活や都市活動を支えるうえで、必要不可欠の基盤であり、道路や防災インフラを中心に未整備区間・箇所の計画的な整備を進めます。

また、これまで整備してきた都市・生活基盤については、今後その維持・管理が大きな課題となることから、施設の長寿命化を計画的に推進します。

一方、生活交通については、海上・陸上を組み合わせた合理的・効率的な交通体系の再構築を行うことにより、サービスの維持・存続を図ります。

これらの取組により、市民生活や都市活動を支えることのできる「しっかりとした基盤を備えたまち」を目指します。

図 基盤部門のポイント状況



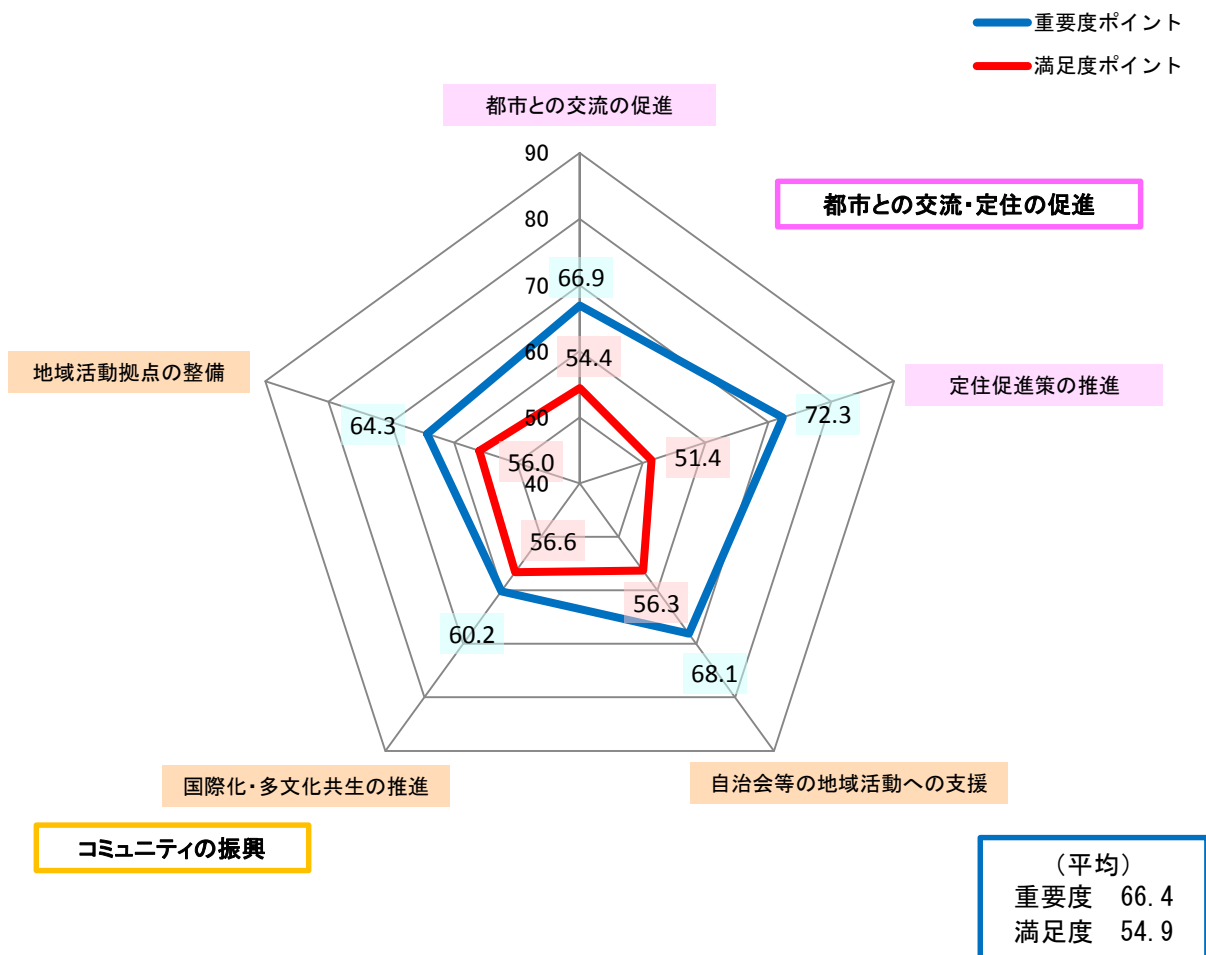
7 地域部門 ～地域が元気で、にぎやかなまち～

過疎化・高齢化が進む中で、いかにコミュニティを維持し、活性化を図るかは、市内のいずれの地域においても、先送りできない課題となっています。

このため、体験型修学旅行など都市住民との交流機会の拡大や、都市部からの2地域居住の促進などを進めることで、地域の活性化を図るとともに、地域活動や拠点整備への支援などを通じて、市民が参加する協働のまちづくりの浸透を図ります。

さらに、江田島市の魅力発信やU・J・Iターンを受入れる環境づくりを進め、定住者の拡大を図ることにより、「地域が元気で、にぎやかなまち」を目指します。

図 地域部門のポイント状況



第3節 数値目標

1 10年後の数値目標

『市民満足度の高いまちづくり』の目標
市民満足度ポイント 70点以上

『市民満足度の高いまちづくり』の数値目標は、市民アンケート調査に基づく市民満足度とします。

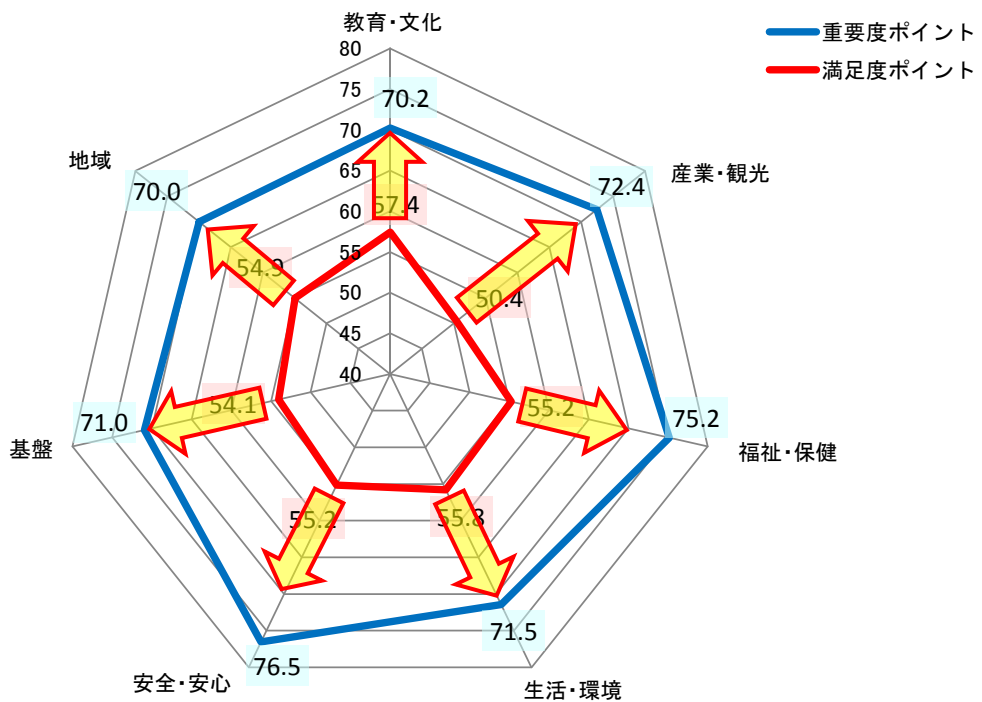
平成25年8月に実施した、市民アンケート調査における平均の市民満足度は54.2点（個別の施策のポイントの分布：46.3点～60.2点）でした。

一方、市民重要度が72.4点（個別の施策のポイントの分布：60.2点～81.5点）であり、18.2ポイントの乖離があります。

このため、本計画期間中に、それぞれの分野において、その乖離を埋めることを目標として設定します。

ただし、市民重要度の評価が低い部門については、市民への周知が不足していることも考えられるため、市民重要度の評価にかかわらず、市民満足度70点を目標とします。

■数値目標の設定（施策全体及び部門の平均）



2 マイルストーン

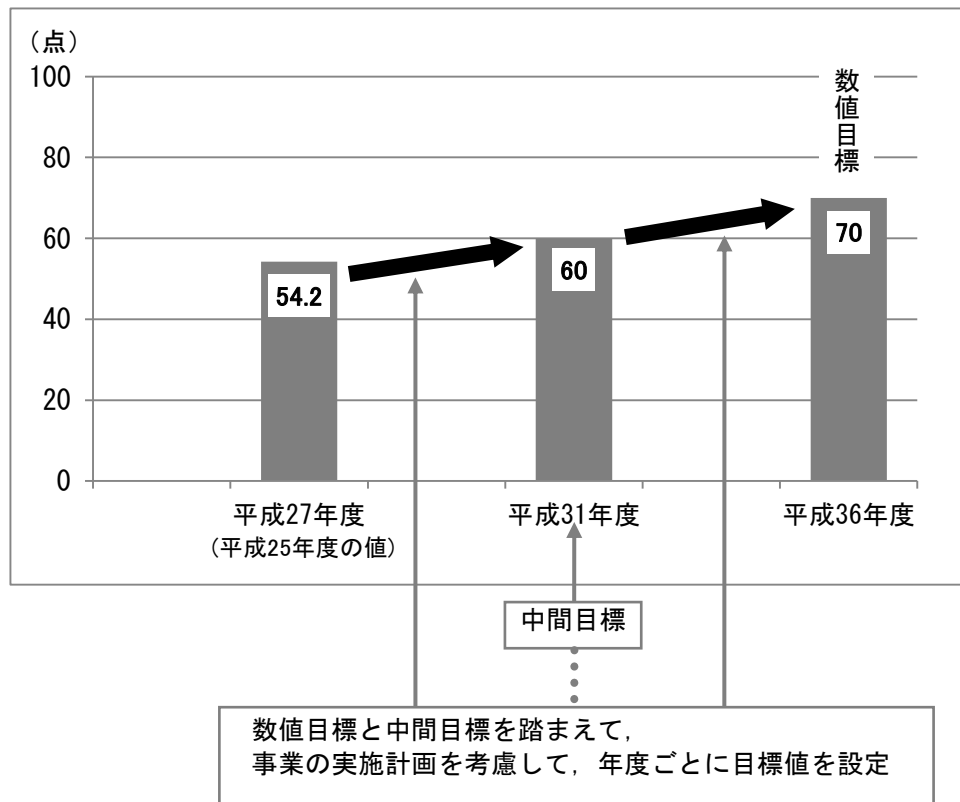
(計画前半) 市民満足度の低い分野の解消に注力 ⇒ 60点

(計画後半) 市民重要度の高い分野の向上へシフト⇒70点

マイルストーンについては、計画期間の前半（平成27年度～平成31年度）は、産業・観光や交通など満足度の低い部門・分野を中心に市民満足度の向上を図り、中間数値目標60点（おおむね満足の水準）の達成を目標とします。

計画期間の後半（平成32年度～平成36年度）については、市民アンケート調査に基づいて市民重要度の最終目標に修正を加えますが、市民重要度の高い部門を中心に市民満足度の更なる向上を図り、全部門で70点以上の目標達成を目指します。

■数値目標とマイルストーンの目標値の設定モデル（施策全体の平均）



※マイルストーン

物事の進み具合を管理するために途中で設ける節目。もとの意味は道路などに置かれ、距離を表示する標識（里程標）のこと。各マイルストーンは最終的な到達点に向かうまでの通過点の目標であり、それぞれの時点で達成すべき事柄（達成要件）と、実際の状況を照らし合わせることで、達成度の確認・評価や進度の調整を行います。

第4章 未来を切り開くまちづくり

第1節 施策の方向

～新たな人の流れや経済活動を創り出す～

1 『海生交流都市』の継承

江田島市が合併して、初めての総合計画である「江田島市総合計画」においては、目標とする都市像として、「自然との共生・都市との交流による『海生交流都市』えたじま」を掲げました。

これは、「自然（海・島）とともに生き、自然にはぐくまれ形づくられた歴史や文化を大切にしながら、多彩な交流を生み出し、まちの「住みよさ、美しさ、元気」を高め、江田島市の個性と魅力を育てることを意図したものです。

島を囲む瀬戸内海をはじめとした豊かな自然や、3F（フルーツ・フラワー・フィッシュ）に代表される質の高い一次産品など本市の強みを生かして、住機能やレクリエーション機能、体験学習・研修といった教育機能について、広島市や呉市などの周辺都市部の受け皿となるという市の発展の基本戦略は、今日も変わりません。

このため、本計画においても、未来を切り開くまちづくりの方向性として、『海生交流都市』という都市像を継承します。

2 『海生交流都市』の再定義

広島湾地域の発展に貢献する
『海生交流都市』えたじま

広島湾のほぼ中央に位置し、通勤・通学、買い物、通院など日常生活や経済活動において、広島市や呉市といった周辺都市への依存度が高い本市の状況を踏まえると、広島湾地域の発展なくして、江田島市の発展も考えられません。

一方で、都市化の進んだ広島湾地域において、昔ながらの自然・生活環境を残している本市は、周辺都市のアメニティ機能を補完し、広島湾地域全体の魅力を引き上げるポテンシャルを有しており、社会の成熟化に伴い、その期待は大きくなると考えられます。

このため、本計画において目標とする『海生交流都市』では、広島市や呉市などの近接性を生かして、都市からのにぎわいを本市の発展に取り込むだけではなく、海と島の自然、歴史文化遺産といった江田島市ならではの特徴的な地域資源を生かして、広島湾地域の住民の癒しや安らぎの空間を提供することで、広島湾地域全体の魅力の向上に寄与し、また、広島市や呉市といった周辺都市から本市への新たな人の流れや経済活動を創り出すことで、「広島湾地域の発展に貢献する『海生交流都市』えたじま」へステップアップすることを目指します。

3 『海生交流都市』 実現の方向

(え) (た) (じ) (ま)
「絵になる島」「楽しめる島」「自慢できる島」「また来たい島」

『海生交流都市』を実現し、広島市や呉市といった周辺都市から本市への新たな人の流れや経済活動を創り出すためには、美しい海や島の豊かな自然をはじめとした地域資源の活用が鍵を握ります。

しかし、海ゴミや荒廃農地などが折角の美しい景観を損ない、また、宿泊・交流施設も不足しているなどの現状があります。『海生交流都市』の実現に向けては、まず、これらの課題を解決し、本市を訪れてよかったと思ってもらえる環境整備を進める必要があります。

さらに、人の流れを大幅に増やし、新たな経済活動にまで発展させるためには、現状に変化を加え、人を惹きつける新たな地域の魅力を育てていくことも必要です。

こうした『海生交流都市』実現の方向を、市の名称「え・た・じ・ま」で始まる言葉で表現すると、次のとおりになります。

計画期間中に、それぞれの方向に沿ったプロジェクトを、市民や関係団体の協力も得ながら、部門を超えた連携のもとに推進していくことにより、新たな人の流れや経済活動を創り出す好循環を生み出し、『海生交流都市』の実現を目指します。

え

絵になる島 ～瀬戸内海で最も美しい景観の島の実現～

江田島市の最大の地域資源は、美しい海と島の豊かな自然です。この恵まれた自然を次世代に引き継ぎ、さらなる美化に努めることで、瀬戸内ならではの多島美を生かした、市民だけでなく、市外の人にとっても癒やしや安らぎにつながる、瀬戸内海で最も美しい景観の島を目指します。

た

楽しめる島 ～海や島の自然を生かした観光・交流人口の拡大～

江田島市は、サイクリングやトレッキング、シーカヤックをはじめとしたマリンレジャー、キャンプ、みかん狩りなどの農業・漁業体験などアクティビティの宝庫です。こうした島の魅力を生かして、市内外の人々が集まり、気軽にアクティビティを楽しめる島を目指します。

じ

自慢できる島 ～地域ブランドと人材育成による新たな魅力づくり～

江田島市は、旧海軍兵学校に代表される歴史・文化資産に加え、国内有数の生産量を誇る牡蠣をはじめとした3F（フルーツ・フラワー・フィッシュ）の産地です。こうした資源にオリーブなど新たな取組を組み合わせ、県内外に自慢できるブランドや特産品のある島を目指します。

また、島ならではの特色のある教育や、県内・全国レベルで通用する文化・スポーツ活動を推進することにより、市民の誇りとなる文化人やスポーツ選手を輩出する島を目指します。

ま

また来たい島 ～リピーター獲得に向けた環境整備～

新たな人の流れを大きくするには、本市へのリピーターを増やしていく必要があります。来島者へのホスピタリティ（おもてなし）の向上に加え、島の魅力を生かしたイベント開催や交流施設の充実、2地域居住の推進などにより、四季を通じて、繰り返し訪れてもらえる島を目指すとともに、住んでみたいと思ってもらえる島を目指します。

第2節 数値目標

1 10年後の数値目標

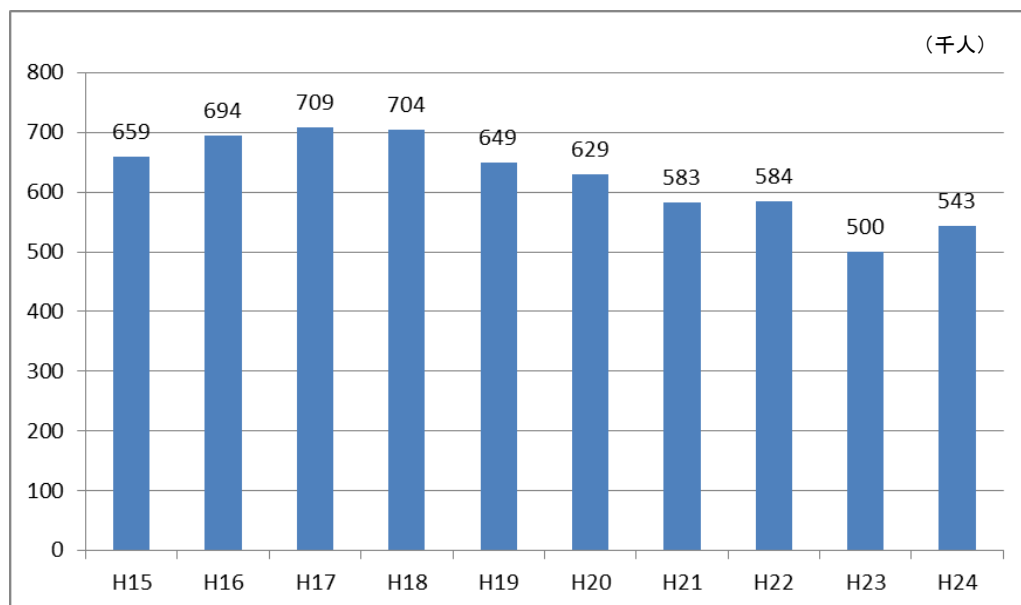
『未来を切り開くまちづくり』の数値目標
平成36年度 交流人口の倍増（総観光客数100万人）

数値目標については、新たな人の流れを創り出すという観点から、人の流れを示す最も一般的な指標である総観光客数で設定します。

江田島市への総観光客数は平成17年の71万人をピークに減少しており、平成24年の総観光客数は年間54万人ですが、島の「未来を切り開く」ためには大幅な交流人口の拡大が求められます。

このため、『海生交流都市』の実現するための4つの方向に沿ったプロジェクトを展開することによって、広島や呉市などの周辺都市からを中心に交流人口の拡大を図り、計画期間の最終年度の平成36年度にはその倍増（総観光客数100万人）を目標とし、観光消費額の増加など経済活動の拡大につなげていきます。

■江田島市の総観光客数の推移



2 マイルストーン

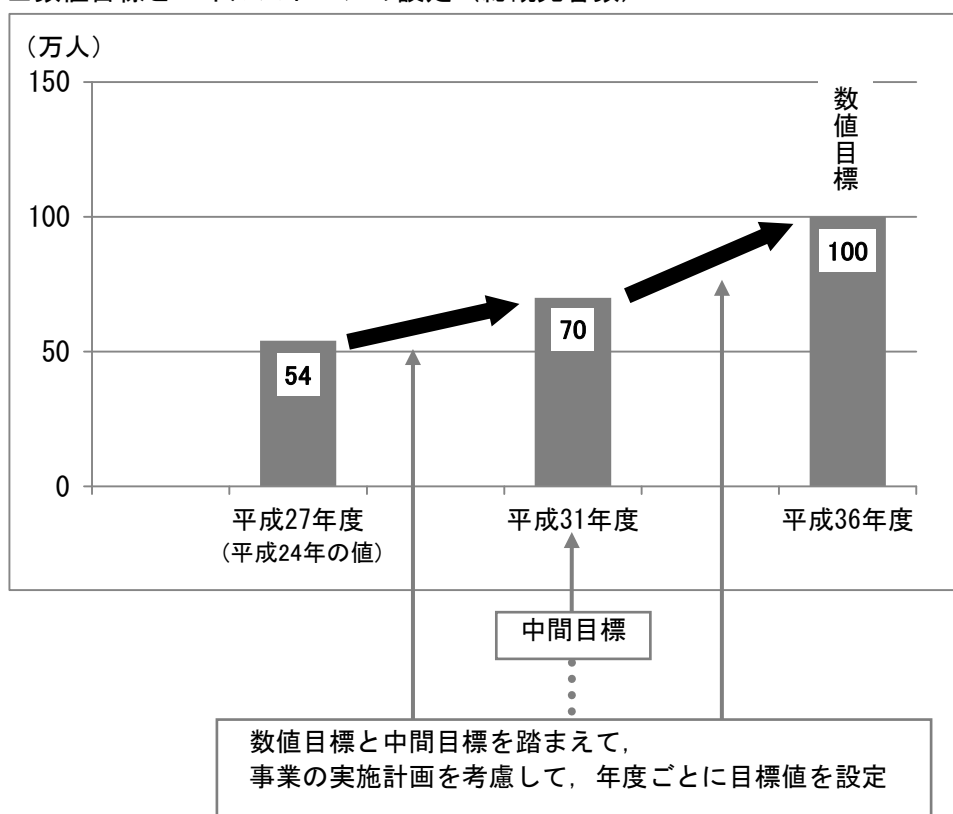
(計画前半) 地域資源を生かしてピークの水準(70万人)を回復

(計画後半) 環境整備や新たな魅力づくりにより30万人上乗せ

マイルストーンについては、計画期間の前半(平成27年度～平成31年度)においては、これまでの取組をベースに、今ある地域資源の魅力向上・情報発信強化により、ピーク時(平成17年)の総観光客数70万人(中間数値目標)の回復を目指すとともに、交流人口の更なる拡大に向けた環境整備や新たな魅力づくりに取り組みます。

計画期間の後半(平成32年度～平成36年度)には、前半における環境整備や新たな魅力づくりをベースに施策をさらに発展させることにより、30万人の上乗せを図り、最終的な数値目標100万人の達成を目指します。

■数値目標とマイルストーンの設定(総観光客数)



第5章 土地利用構想

土地利用構想では、まちづくりの基本方針と基本戦略を踏まえ、長期的な視点を持ちながら、江田島市が一体感を持って発展していくための都市構造の形成に必要な拠点及びゾーンの整備並びにネットワーク軸の形成について設定します。

第1節 拠点の整備

1 都市拠点（センターゾーン）

江田島市の中央に位置し、商業施設等が多く集積している江南・飛渡瀬を、引き続き、都市拠点として位置づけ、商業施設の立地誘導や新たな拠点の公共施設の配置など、全市を対象とした広域的な都市機能の集積に努めます。

2 地域拠点

地形条件により、市内には都市拠点へのアクセスが不便な地域も存在します。

このため、行政施設、商業施設等が集積し、生活圏の中心地としての役割を担っている中央、切串、中町、三高、沖、大原の各地区を、都市拠点を補完する地域拠点として位置づけ、公共公益機能、商業機能、交流機能、島内外の交通結節機能等の充実に努めます。

3 観光・交流拠点

市内外からの交流を拡大するため、公共施設である国立江田島青少年交流の家、能美ロッジ、サンビーチおきみ、さとうみ科学館（大柁自然環境体験学習交流館）及びその周辺部を観光・交流拠点と位置づけ、観光・レクリエーション・体験学習等の場としての環境整備に努めます。

また、道の駅や海の駅など新たなにぎわいを創出する拠点整備を検討していきます。

第2節 江田島市の魅力と活力を高めるゾーン

1 居住ゾーン

市街地・集落の形成されている地区については、都市基盤施設や生活環境の整備に努めるとともに、市民との協働により、地域の特徴を生かした快適なまちづくりを進めます。

また、旧小学校区を基本にコミュニティの集会・交流機能等の充実に努めます。

2 産業ゾーン

工場が集積する小用，江南，鹿川，岡大王などの地区は，工業地としての環境を整備するとともに，より地域に根づく産業となるよう，自然環境との調和や循環型社会への対応を促進します。

また，工業地に近接する農業団地の生産や販売流通を支援しながら，工業と農業，環境・レクリエーションが共存するゾーンの形成を図ります。

3 海と島の観光・交流ゾーン

自然観察や探勝の場・ルート，海水浴場，海の駅，マリーナ，宿泊・滞在施設等が点在する幸ノ浦・大須，美能から岡大王，中町，大君，深江などの海岸線を中心に，本市の魅力づくりと交流人口の拡大につながる観光・交流ゾーンの整備・充実に努めます。

4 緑と眺望の観光・交流ゾーン

江田島六峯（古鷹山・クマン岳・真道山・宇根山（野登呂山）・三高山（砲台跡）・陀峯山）の周辺の自然と眺望を生かしながら，本市の魅力づくりと交流人口の拡大につながる観光・交流ゾーンの整備・充実に努めます。

第3節 交流ネットワーク軸の形成

1 陸の交流ネットワーク軸

江田島市の都市機能と都市環境を高めていくため，本市の道路交通ネットワークの骨格である一般国道 487 号や主要地方道江田島大柿線など拠点・ゾーン等を結ぶ道路交通ネットワーク軸の整備・充実に取り組みます。

また，江田島市と広島市を結ぶ広島湾架橋構想や市内の道路交通ネットワークを分断している津久茂～高田間（津久茂架橋）及び一般県道大君深江線の未整備区間については，市民ニーズなども勘案しながら，実現に向けて関係機関に働きかけます。

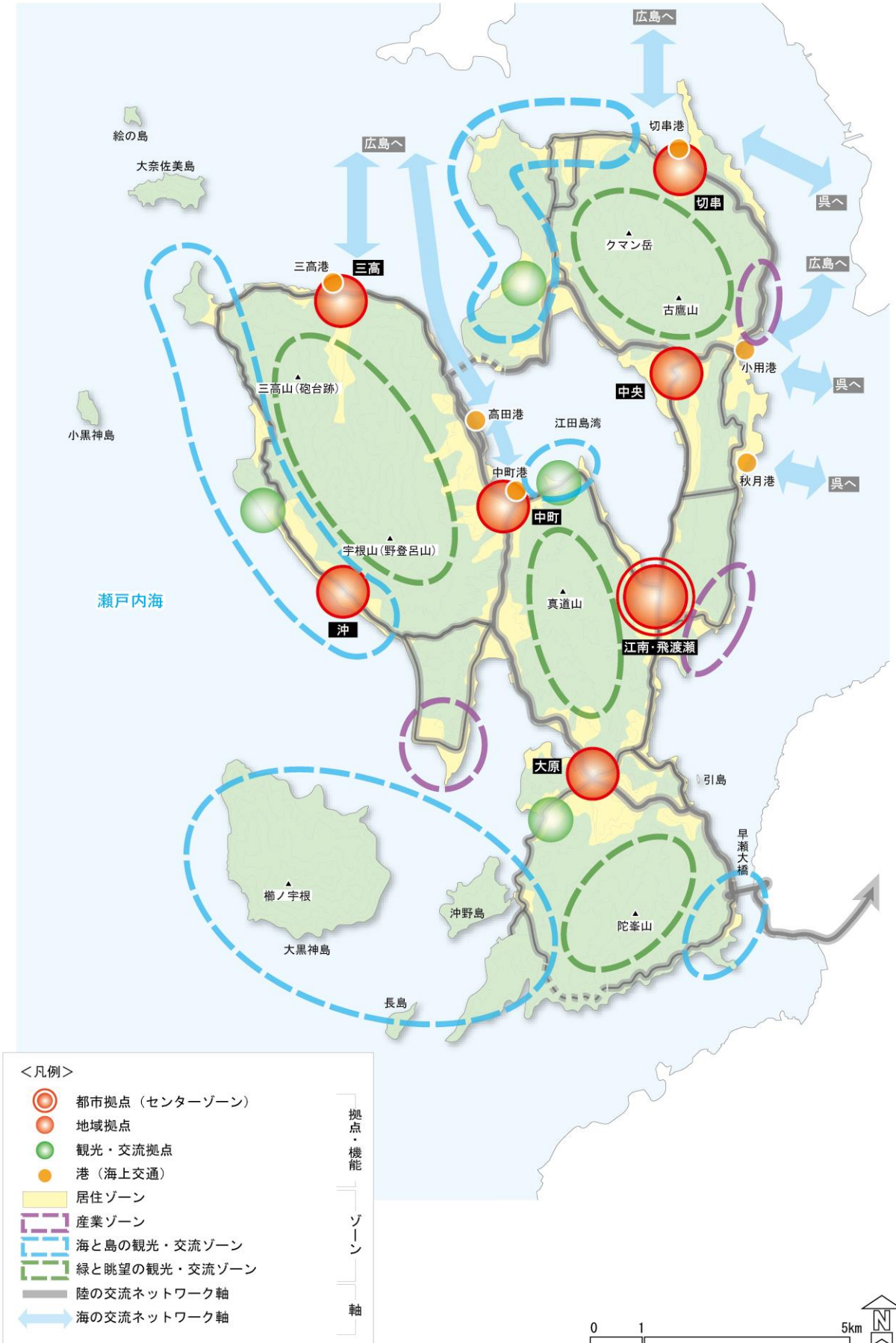
さらに，サイクリングロードの整備や市民も参加した沿道の美化・景観づくり，交通空白不便地域における移動手段の維持・確保などにより，便利で快適な道路交通ネットワークの形成を目指します。

2 海の交流ネットワーク軸

市民生活の基盤でもある広島市や呉市をつなぐ海上交通ネットワークについては，国・県，関係自治体とも十分に連携をとりながら，市全体における望ましい，陸上交通と一体となった持続可能なネットワークの構築に向けて取り組みます。

合わせて，海からの玄関口であり，交通結節点となる港湾施設の機能の維持・強化に努めます。

図 土地利用構想



第2編 基本計画

第1部 部門別計画

～市民満足度の高いまちづくり～

第1章

教育・文化部門

『人が育ち、輝くまち』

＜将来像＞

子どもたちが夢や目標を持って学び、育ち、
市民一人ひとりが、生涯を通じて、学び、活動し、生きがいを感じる

『人が育ち、輝くまち』

が定着しています

＜分野（節）と基本施策＞

第1節 学校教育の充実

- 1 学校教育の内容（小中学校）
- 2 学校と地域・家庭との信頼関係
- 3 学校施設の整備

第2節 生涯学習の充実

- 1 生涯学習活動の支援
- 2 社会教育施設の整備
- 3 伝統文化・文化財の保護

第3節 スポーツの振興

- 1 スポーツ・レクリエーションの普及・振興
- 2 社会体育施設の整備

教育・文化に関わる“強み”

～主な特色・地域資源、特に活用したいもの・こと～

- 旧海軍兵学校をはじめとした歴史遺産、培われてきた歴史文化
- 海と島の自然
- 大柿自然環境体験学習交流館（さとうみ科学館）
- 夏休み自然・科学体験教室などの取組
- 文化芸術フェスタなど市民の芸術文化活動
- 総合型地域スポーツクラブなど市民のスポーツ活動
- ヒロシマMIKANマラソン大会などスポーツイベントと交流の機会

写真など

写真など

第1節 学校教育の充実

＜施策の目標（目指す姿）＞
確かな学力と生きる力がはぐくまれ、
個性豊かな学校づくりが進んでいます

※重要度・満足度は、平成25年度市民アンケート調査

1 学校教育の内容（小中学校）

重要度 80.0 / 満足度 58.0

【現状と課題】

平成25年度「基礎・基本」定着状況調査結果においては、すべて平均通過率※160%（広島県の設定基準）を超えていることから、基礎的・基本的な学習内容は概ね定着していると考えられますが、広島県平均よりも低い教科、領域があることから、課題等を詳細に把握し、対応する必要があります。

【施策の方向】

学力調査、体力・運動能力調査及び生徒指導上の諸問題の集計において、国や県との比較で課題があるため、結果を分析し、授業改善等を行うことにより、生きる力である「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育成し、その水準を向上させます。

【主な取組】

- 授業改善による学力の定着・向上
- 児童生徒の発達段階に応じた道徳教育及び人権教育の推進
- 里海を教育資源とした体験活動の推進
- スポーツ活動の実施及び部活動の活性化による体力・運動能力の向上
- 食育の推進
- 英語教育の充実等による国際教育の推進
- 職場体験学習などによるキャリア教育の推進
- 特別支援教育の推進

※1 通過率

(正答数) ÷ (全問題数) × 100 = 通過率です。

全問題数が25問出題され、もし、正答数が20問であれば通過率は次のように算出されます。

$$20 \div 25 \times 100 = 80 (\%)$$

2 学校と地域・家庭との信頼関係

重要度 79.6 / 満足度 57.4

【現状と課題】

児童・生徒の生きる力を育むためには、地域や学校の実態に応じ、家庭や地域の人々の協力を得るなど家庭や地域社会との連携を深める必要があります。そのためには、各学校の教育方針や特色ある教育活動、児童・生徒の状況などについて家庭や地域の人々に説明し、理解や協力を求めたり、家庭や地域の人々の学校運営などに対する意見を的確に把握し、自校の教育活動に生かしたりすることが求められています。

【施策の方向】

組織的な学校体制のもとで、質の高い教師を育成するとともに、地域に開かれた学校づくりを進め、学校・家庭・地域の連携により個性豊かで信頼される学校を目指します。

【主な取組】

- 自主研究への支援等による教職員の資質・指導力の向上
- 高校活性化による中高連携の充実
- 学校に関する情報提供等による開かれた学校づくりの推進
- 遠距離通学への対応

3 学校施設の整備

重要度 72.0 / 満足度 59.1

【現状と課題】

児童・生徒数が減少する中、学校規模の適正化（学校再編）を図りながら、児童・生徒がいきいきと学び、活動することのできる個性豊かな学校づくりを進めるとともに、安全・安心な環境を確保していく必要があります。

【施策の方向】

老朽化した校舎等の耐震化及び修繕、及び情報機器の更新などを計画的に行い、児童・生徒の安全の確保と、いきいきと学び、活動できる学校づくりを進めます。

【主な取組】

- 学校施設の耐震化
- 学校施設・設備の管理・整備
- ICT教育等の情報機器の整備

第2節 生涯学習の充実

＜施策の目標（目指す姿）＞
だれもが生涯を通じて学び、活動し
その成果が生かされる地域がつくられています

1 生涯学習活動の支援

重要度 68.5／満足度 57.6

【現状と課題】

人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価される「生涯学習社会」の実現が求められています。

江田島市の生涯学習活動を見ると、公民館、図書館などにおいて様々な活動が行われていますが、一方で、参加者が限られていること、若い世代が少ないことなどが指摘されます。

【施策の方向】

市民ニーズにあった講座を実施するなど、公民館講座の充実を図ります。

内容の検討、積極的な広報等を行い、市美術展や文化芸術フェスタなどの充実を図るとともに、児童や青少年の居場所づくり、体験学習などの機会の確保・充実に取り組みます。

人権教育講演については、関係課で調整を図りながら、効果的に事業を展開します。

図書館利用について、市民の要望や意見等を参考にしながら利便性を高め、利用者の増加に努めます。

【主な取組】

- 市民ニーズに応じた公民館学習の支援や交流機会の提供
- セミナーの開催等による生涯学習の推進
- 講演等による人権教育の推進
- 公立図書館の連携や読書グループの育成などによる図書館サービスの充実
- 文化芸術を鑑賞する機会の確保
- 放課後の遊びや生活の場の確保

2 社会教育施設の整備

重要度 65.7／満足度 57.3

【現状と課題】

江田島市には、生涯学習を支える施設などが多数ありますが、類似した施設が近隣に立地しているケースがあることや施設の老朽化などが指摘されます。

人口減少や厳しい財政状況が続く中、公共施設の役割分担や連携など検討しながら、全市的な視野に立って社会教育施設などのあり方を明らかにし、再編・整備や有効活用に取り組んでいく必要があります。

【施策の方向】

生涯学習の活動拠点となっている施設・備品の老朽化等により、維持管理に課題が生じている現状を踏まえ、計画的な改修・修繕や有効活用を進めるとともに、社会教育施設などの再編・整備について検討します。

【主な取組】

- 社会教育施設の修繕

3 伝統文化・文化財の保護

重要度 67.4 / 満足度 57.8

【現状と課題】

江田島市には、海上自衛隊第1術科学校(旧海軍兵学校)のレンガ建築をはじめ、数多くの歴史遺産や美しい風景が息づいているとともに、各地域において伝統行事などが継承されています。

しかし、こうした歴史遺産などが十分生かされていない面があったり、人口減少や高齢化等により、保存・活用が難しくなったりしている現状があります。

【施策の方向】

伝統文化や文化財の保護などに関わる各団体の会員数が増えないという課題があるので、新会員の加入PRを積極的に進めます。

市民の文化財についての興味や関心を高めるとともに、文化財保護委員会において文化財指定の調査・研究を推進します。

学びの館及び大柿地区歴史資料館（灘尾記念文庫）などの利用者数の増加を目指し、展示内容の充実や資料の整理、企画展の開催、積極的な広報に努めます。

【主な取組】

- 優れた文化・伝統文化の保存・継承の推進
- 古文書研修などによる文化財の保存・管理の推進，継承
- 学びの館の活性化
- 大柿地区歴史資料館（灘尾記念文庫）の活性化

第3節 スポーツの振興

＜施策の目標（目指す姿）＞
だれもが、興味や体力等に応じて、
スポーツ・レクリエーションに親しんでいます

1 スポーツ・レクリエーションの普及・振興

重要度 64.8／満足度 56.3

【現状と課題】

江田島市では、「みんなで創ろう！元気と笑顔」をキャッチフレーズに、生涯に渡ってだれでもが気軽にスポーツを楽しみ、明るく住みよい地域づくりに貢献することを目的として、平成22年2月に総合型地域スポーツクラブが設立されました。

また、社会体育施設だけでなく、海と島の特色を生かした屋外におけるスポーツ・レクリエーションの環境を備えています。

【施策の方向】

地域で行う運動会をはじめ、各種スポーツ大会において、スポーツ推進委員や運動普及推進員などと連携し、体力づくりや健康づくりの普及・推進を図ります。

総合型地域スポーツクラブについては、市民ニーズに対応した運営を行うために、事務局体制の強化や指導者のスキルアップ、運営プログラムの充実などを図っていくとともに、市体育協会、スポーツ少年団など地域団体と連携し充実に努めます。

サイクリングやマリンスポーツなど、海と島の特色を生かした屋外におけるスポーツ・レクリエーションの普及・推進に取り組み、観光資源としても活用します。

【主な取組】

- 市民が気軽に楽しめるスポーツの振興
- マラソンなどのスポーツイベントの開催

2 社会体育施設の整備

重要度 63.6／満足度 55.8

【現状と課題】

江田島市には、スポーツセンターや武道館、体育館など、スポーツ・レクリエーション施設が多数立地していますが、施設の老朽化や立地的な偏りなどが指摘されます。

【施策の方向】

スポーツ活動の場となっている施設・備品の老朽化等により、維持管理に課題が生じている現状を踏まえ、計画的な改修・修繕や有効活用を進めるとともに、スポーツ・レクリエーション施設などの再編・整備について検討します。

【主な取組】

- スポーツ施設の修繕

第2章

産業・観光部門

元気な産業・観光を生み出すまち

<将来像>

地域経済と雇用を支え、
U I ターン等の定住を促進する
『元気な産業・観光を生み出すまち』
が育っています

<分野（節）と基本施策>

第1節 農林業の振興

- 1 農林業の生産基盤の整備
- 2 農林業の後継者・担い手の育成
- 3 農林産物の
高付加価値化・ブランド化

第3節 商工業の振興

- 1 企業誘致の推進
- 2 創業・起業への支援
- 3 地場産業への支援
- 4 労働者福祉の向上

第2節 水産業の振興

- 1 水産業の生産基盤の整備
- 2 水産業の後継者・担い手の育成
- 3 水産物の
高付加価値化・ブランド化

第4節 観光の振興

- 1 観光資源の発掘・魅力づくり
- 2 宿泊・観光施設の整備

産業・観光に関わる“強み”

～主な特色・地域資源，特に活用したいもの・こと～

- 3F（フルーツ・フラワー・フィッシュ），高品質の野菜
- オリーブ（オリーブの島）
- 広島湾に位置する島，広島市等との近接性
- 里海と環境
- かき（かきの一大産地，ブランドかき「一粒くん（一粒かき）」）
- 豊かな食と食文化
- 地場産業（農林水産業，商工業，観光），6次産業の取組
- サイクリングの島，サイクリング客の増加
- 歴史文化や自然などの観光資源

写真など

写真など

第1節 農林業の振興

<施策の目標（目指す姿）>
高品質のフルーツ・フラワー，野菜，そしてオリーブの栽培と6次産業化が進み，
多彩な江田島ブランドが育っています

1 農林業の生産基盤の整備

重要度 71.2 / 満足度 52.2

【現状と課題】

江田島市の農林業の生産基盤は，傾斜地の多い地形条件から，大きく制約されており，担い手の減少等と相まって，荒廃農地が増加しています。

一方で，温暖な気象条件や土壌などは，かんきつ類や花卉などの栽培に適した条件となっています。

【施策の方向】

営農環境や農村生活環境の向上と農地の持つ多面的な機能を維持していくため，農業用水の確保，農道や用水路の整備，農業生産整備の近代化支援などに取り組むとともに，有害鳥獣による農地被害対策，農地の有効活用と荒廃防止等に努めます。

【主な取組】

- 中間管理機構などによる農地流動化の促進
- 日本型直接支払制度による農地保全や農道・水路の維持管理
- 有害鳥獣被害対策の推進
- 農業機械・整備の近代化の支援
- 計画的な間伐等による森林の保全と防災対策
- 堤防・護岸等の農地海岸保全施設の整備
- 釣附地区の農地造成

2 農林業の後継者・担い手の育成

重要度 75.0 / 満足度 49.1

【現状と課題】

江田島市の総農家数は減少を続けており，農業の担い手の減少や高齢化が進んでいますが，一方で，高品質の農産物を栽培・販売する担い手も育っています。

【施策の方向】

農業の継承と発展に向け，農業後継者の育成や認定農業者制度の活用を進めるとともに，地域営農集団や中核農家の育成，さらには異業種参入も含めた農業生産法人化を誘導します。

【主な取組】

- 研修や営農活動の支援等による新規就農支援対策の推進

3 農林産物の高付加価値化・ブランド化

重要度 70.4 / 満足度 51.1

【現状と課題】

江田島市の代表的な農産物として、かんきつ類、花き、野菜があり、一次製品の加工品も特産品になっています。

また、近年においては、オリーブ事業にも取り組んでおり、今後、より一層オリーブの栽培を促進しながら、オリーブオイルなど加工品の製造を本格化させ、江田島オリーブのブランド化を目指しています。

【施策の方向】

農業協同組合等関係機関などとの連携のもとに、営農指導体制の強化を図りながら、都市近郊型農業による産地化を進め、果樹・花卉、野菜の生産性の向上、特産品の開発と6次産業化への展開などに取り組み、付加価値の高い農業の確立に努めます。

また、荒廃農地の活用及び特産品の開発を合わせたオリーブの島・江田島を創造し、江田島市のイメージアップに努めます。

【主な取組】

- 農業活性化推進協議会の活動推進
- 農産物の安値への対応
- 農産物の6次産業化の推進
- オリーブ栽培等の振興

第2節 水産業の振興

＜施策の目標（目指す姿）＞

かきや地魚の付加価値と知名度が高まり、販路も広がり、
魚介類と料理を目的に江田島市を訪れる人が増えています

1 水産業の生産基盤の整備

重要度 69.8 / 満足度 54.3

【現状と課題】

江田島市は広島湾に位置する島しょ部であり，“里海”を代表する海域があり，多くのかき筏が固有の風景にもなっています。

また，湾や入り江の多い地形条件を活用し，数多くの漁港が整備されているとともに，漁場環境の改善や水産資源の維持・増殖などに取り組んできています。

【施策の方向】

漁業協同組合等関係機関との連携のもと，漁場環境の改善に取り組むとともに，魚礁や築いその設置など漁業生産基盤や漁港の整備，水産種苗の放流による水産資源の維持・増殖などを図り，“つくり育てる漁業”を推進します。

【主な取組】

- 海底清掃や魚礁・築いそ整備などの漁場環境の改善
- 漁具倉庫，漁船巻上施設，係留施設などの漁業近代化施設等の整備
- 水産種苗の放流などによる特定魚種資源の適正管理

2 水産業の後継者・担い手の育成

重要度 72.6 / 満足度 51.5

【現状と課題】

江田島市の水産業，特にかき養殖は基幹産業として，地域経済を支え，雇用の場を提供していますが，担い手の不足や高齢化などが指摘されています。

【施策の方向】

持続的に水産業を振興するため，漁業経営の安定化と担い手育成などに取り組めます。

【主な取組】

- 担い手育成・後継者の確保及び活動推進
- 貸付利子補給などによる漁業経営の安定化の支援

3 水産物の高付加価値化・ブランド化

重要度 70.1 / 満足度 53.7

【現状と課題】

江田島市は，質・量とも日本一を誇る広島県における代表的なかきの産地であり，ブランドかき「ひとつぶくん（三倍体）」の生産・販売も行っています。

一方，水産物の鮮度保持や漁獲物の品揃えに対処し，効率的・効果的に出荷する必要があります。

【施策の方向】

かき，地魚の付加価値を高め，産地間競争に打勝つブランドを確立するため，集荷システムや輸送システムを構築するとともに，鮮度保持はもとより，鮮魚の集積や輸送等に耐えうる施

設も含めて検討することにより，消費者の信頼とニーズに応じた取組を展開します。

【主な取組】

- かきのPRなどによる特産品づくりの促進
- 水産加工施設の整備などによる流通・販売体制の強化

第3節 商工業の振興

＜施策の目標（目指す姿）＞
商工業が元気に営まれ、
市内に働く場が確保され、買い物等の生活も支えられています

1 企業誘致の推進

重要度 74.0 / 満足度 46.3

【現状と課題】

江田島市では企業誘致制度を促進するために企業立地奨励制度を設けており、内容についても充実させてきましたが、立地条件など様々な要因から、奨励制度を適用する立地の実現は難しい状況です。

若者等の流出や人口減少は、市内において雇用の場が少ないことも要因の一つとなっていると考えられ、雇用の場の確保は重要な課題となっています。

【施策の方向】

江田島市内において雇用の場を確保し、若者等の流出の抑制とU I ターンの促進を目指すため、企業誘致戦略を整理するとともに、奨励制度の情報発信を充実させ、企業立地の促進を図ります。

【主な取組】

- 企業誘致に関する戦略の構築
- 企業立地の奨励

2 創業・起業への支援

重要度 71.3 / 満足度 49.0

【現状と課題】

創業・起業支援について、現在は商工会を通じた支援に留まっていますが、市内事業者の高齢化や後継者不足等による廃業などで空き店舗等が増加しつつあります。

【施策の方向】

関係機関等と連携しながら、各種支援制度等の活用を進めるとともに起業や新たな業種参入に関わる経費の助成など、創業・起業や新分野進出への支援により、新たな産業の創出や空き店舗等の流動化促進などを図ります。

【主な取組】

- 支援制度による起業の促進
- 支援制度による新業種参入の促進

3 地場産業への支援

重要度 72.7 / 満足度 50.5

【現状と課題】

江田島市の商工業は、そのほとんどが小規模の商店や事業所であり、人口の減少や景気の低迷等により厳しい経営を強いられています。

【施策の方向】

商工会への支援を通じて中小事業者の経営改善を促進するとともに、中小事業者が融資を受けた際の補助金の交付について、制度の周知を図ります。

【主な取組】

- 商工会の取組への支援
- 中小企業振興資金の助成による経営安定化

4 労働者福祉の向上

重要度 74.0 / 満足度 50.9

【現状と課題】

江田島市では、ハローワークの求人情報を市内各所に配布するなど情報提供を行っていますが、ハローワーク呉に所管が1本化されたこともあり、今後はそことの連携を図りながら、市内企業の就職相談会などに取り組む必要があります。

また、庁内においては、産業部局と福祉部局で就労に関する施策を担当しています。

【施策の方向】

ハローワーク呉との連携や庁内の就労等に関する情報の共有化を図りながら、市内での就職相談会の開催や緊急的な雇用の確保など、労働者福祉の向上に努めます。

【主な取組】

- 就職相談会の開催
- 緊急対応的な雇用の創出
- 労働者の生活安定を図るための預託融資制度

第4節 観光の振興

＜施策の目標（目指す姿）＞
総観光客数 100 万人を達成し、
観光が基幹産業となり、多様な交流が生まれています

1 観光資源の発掘・魅力づくり

重要度 74.7 / 満足度 49.7

【現状と課題】

広島市・呉市といった都市と隣接している江田島市では、自然豊かな本市を広く積極的にPRし、交流人口を増加させ、江田島市民との交流を促進しながら、癒しの空間やサービスを提供していきたいと考えています。

また、本市には、歴史文化や自然、食をはじめ多彩な観光資源などがありますが、その中には、あまり知られていないものもあります。

【施策の方向】

江田島市ならではの観光資源の発掘・魅力づくりを進めるため、自然や食を活用したイベント開催や“おもてなし”の力を高めていくとともに、島特有の立地や自然を生かした体験メニューの開発、PR・情報発信に取り組みます。

【主な取組】

- 観光ボランティアの養成
- 観光イベントの支援
- 観光体験メニューの開発推進
- 共同キャンペーンなどの他市との共同による広域誘客の促進
- 主要観光施設への情報インフラの整備
- カヌー・登山・サイクリングなどアウトドアスポーツの振興

2 宿泊・観光施設の整備

重要度 73.7 / 満足度 46.7

【現状と課題】

観光客が江田島市内を周遊し、また宿泊するなど滞在時間を延長することで、市民間交流や地域経済の活性化などのメリットが生まれてきます。

しかし、現状ではサイクリング客用の案内板が未整備で、登山客用の表示等は老朽化しており、宿泊関連施設についても老朽化が進み、機器等の改修が必要となっています。

【施策の方向】

安全・快適に市内観光ができるよう、観光案内板の整備など観光情報の提供を充実させます。

また、サイクリングの島づくりを進めるため、サイクリング客の無料休憩場所を確保し、飲料水やメンテナンス工具等を備えたサービスを提供するとともに、市民との交流の場としても活用します。

宿泊関連施設については、利用客へのサービスを維持するための修繕等を行いながら、これからの施設整備方針を策定し、それに基づいて対応していきます。

【主な取組】

- 多言語化など観光案内板の整備
- サイクルステーションの整備
- 能美海上ロッジ等のあり方検討及び整理に基づく対応

<将来像>

乳幼児期から高齢期まで、すべての市民が家庭や地域で、
元気でいきいきと日常生活が送れる
『健康で安心して暮らせるまち』
が築かれています

<分野（節）と基本施策>

第1節 子育て環境の充実

- 1 子育て支援サービスの充実
- 2 保育園・児童館等の整備

第4節 障害者福祉の充実

- 1 障害者福祉サービスの充実
- 2 障害者福祉施設の整備

第2節 保健・医療の充実

- 1 保健・健康づくりサービスの充実
- 2 医療機関の充実

第5節 社会福祉の充実

- 1 セーフティネットの確保
- 2 地域福祉・ボランティアの推進

第3節 高齢者福祉・介護の充実

- 1 高齢者福祉サービスの充実
- 2 介護サービスの充実
- 3 高齢者福祉・介護施設の整備

福祉・健康に関わる“強み”

～主な特色・地域資源、特に活用したいもの・こと～

- 第三子以降保育料無料化など子育て支援の取組
- 地域医療の充実に向けた取組：在宅当番医制，江能准看護学院（江能医師連合会）
- 温暖で過ごしやすい気候
- 海と島の自然
- 安全・安心な食と食文化，食育
- 支えあい・助けあいの地域社会（コミュニティ）

写真など

写真など

第1節 子育て環境の充実

＜施策の目標（目指す姿）＞

子育て支援を充実し、
子どもが生き生きと健やかに育つ環境を整備します

1 子育て支援サービスの充実

重要度 75.3 / 満足度 56.7

【現状と課題】

核家族化や働く女性の増加、コミュニティの変化などを背景に、市民の子育て支援ニーズは多様化しています。

江田島市では、子育て世代の意見を取り入れた「江田島市子ども・子育て支援事業計画」を基に、3歳以上の全児童受け入れ、延長保育、一時預かり事業などの保育サービス、放課後児童クラブや児童館及び子育て支援センターの運営など、子育てしやすいまちづくりに取り組んでいます。

【施策の方向】

多様な子育て支援ニーズに対応するため、地域全体で親子を見守り、安心して子どもを産み、育てることができる環境整備を行い、子育て家庭等の子育てに対する不安の解消を図ります。

また、児童虐待及びDVをはじめとする家庭問題に対しては、迅速かつ的確に対応できる体制を強化し、子どもやDV被害者の人権が確保されるよう支援します。

【主な取組】

- 子育て支援センターの充実
- 複合型子育て支援センター等のあり方検討及び整理に基づく対応
- 児童虐待への対策の充実
- ひとり親家庭等への自立支援

2 保育園・児童館等の整備

重要度 73.7 / 満足度 56.9

【現状と課題】

国においては、子育てを取り巻く状況や環境の変化を背景に、子ども・子育て支援法の制定や関連する法律の改正などが行われ、これらに対応した取組が市町村に求められています。

また、江田島市の保育園・児童館などの施設の多くは昭和50年代の建物であり、老朽化・耐震化対策は喫緊の課題となっています。

【施策の方向】

保育園をはじめとする子育て施設を、安全で安心して預けられる施設にするため、江田島市子ども・子育て支援事業計画に基づき、老朽化が著しい施設の整理統合等の再編・整備を図るとともに、長寿命化・耐震化対策を計画的に実施します。

また、施設の再編・整備に合わせ、子育て世代の負担を軽減させるため、子育て支援サービス等の拡充を図り、「子ども達が住みやすい、親が子育てしやすい環境」をハード・ソフトの両面から支援します。

【主な取組】

- 保育園の管理運営（認定こども園への移行検討など）
- 児童館の管理運営
- 保育園給食センターの運営による食育の推進

第2節 保健・医療の充実

＜施策の目標（目指す姿）＞
**医療機関等の連携体制が強化され、
必要な医療サービスを安心して受けることができます**

1 保健・健康づくりサービスの充実

重要度 71.9／満足度 57.1

【現状と課題】

江田島市では、高齢化や生活習慣の変化により、疾病全体に占める生活習慣病の割合が約5割を占めています。

また、市民1人当たり医療費は、県内23市町でワースト4位（平成24年度国民健康保険実績）となっています。

【施策の方向】

糖尿病や高血圧症、がん等の生活習慣病の予防に努め、健康寿命の延伸と生活の質の向上を図るため、市民一人ひとりが主体的に取り組むことができる健康づくりを推進します。

【主な取組】

- 生活習慣病予防や健康づくりに重点をおいた食育の推進
- 保健センターの管理運営
- 出産・育児などに関する仲間づくりなどの母子保健の充実
- 妊婦・乳幼児健康診査の実施
- 健康教室や講演会などによる市民の健康増進の支援
- 国保特定健診・生活習慣病健診・がん検診の充実
- 予防接種の実施
- 研修や相談会などによる心の健康づくりの推進

2 医療機関の充実

重要度 81.5／満足度 51.1

【現状と課題】

医師の高齢化や開業医の引退、小児科をはじめとする病院勤務医の減少などにより、救急医療体制の当（輪）番が組みにくい状況にあります。

【施策の方向】

医療サービスを適切に受けることができるよう、地元の医師会や呉市との連携の強化を図るとともに、一次及び二次・三次救急医療体制の確保に努めます。

【主な取組】

- 休日・夜間の救急医療体制の確保
- 在宅当番医制による医療体制の確保

第3節 高齢者福祉・介護の充実

＜施策の目標（目指す姿）＞
支援や介護の必要な高齢者等が、
地域で安心して生活できる環境が整っています

1 高齢者福祉サービスの充実

重要度 77.2 / 満足度 54.8

【現状と課題】

高齢化の進行に伴い、高齢者の単独世帯や夫婦のみ世帯が増加しており、このため、地域社会全体で高齢者を支えることが重要となっています。

【施策の方向】

高齢者の社会参加を通して、介護予防知識の普及・啓発を図るとともに、教養を高めるための研修会などを実施し、生きがいを持って生活できる環境づくりに取り組みます。

また、高齢者が介護が必要になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・福祉・介護予防・生活支援が一体化に提供される仕組みづくりの推進を目指します。

【主な取組】

- 老人クラブの活動支援
- 高齢者の能力活用（シルバー人材センター）
- 地域包括ケアに関する意識啓発
- 医療・介護・福祉に関する情報提供

2 介護サービスの充実

重要度 77.5 / 満足度 55.3

【現状と課題】

人口減少が続く一方で、高齢化率は高まり、介護給付費は年々増加しており、介護サービスの充実と合わせて、介護予防を推進する必要があります。

【施策の方向】

介護保険制度の適正かつ効率的な運用を図るとともに、高齢者が輝き、安心して暮らせる地域を築くよう取り組みます。

【主な取組】

- 高齢者福祉・介護保険に関する計画策定
- 介護予防の推進（啓発、一次予防、二次予防など）
- 生活支援を担う人材の育成確保

3 高齢者福祉・介護施設の整備

重要度 77.6 / 満足度 54.0

【現状と課題】

高齢者等が住み慣れた地域で、安心して暮らしていくためには、地域における支えあいの取組を進めながら、生活支援や介護の充実と合わせて、一人ひとりの能力や健康状態等に応じた社会参加の促進、多様な交流の場と機会の確保が求められます。

【施策の方向】

高齢者等が地域で生きがいのある生活を送れるよう、交流の場などの確保・充実に取り組めます。

【主な取組】

- 老人集会所の維持管理

※地域包括ケア（システム）

重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される仕組み。

第4節 障害者福祉の充実

＜施策の目標（目指す姿）＞

障害者が住み慣れた地域で必要なサービスを受け、
自立した生活を送る環境が整っています

1 障害者福祉サービスの充実

重要度 75.0 / 満足度 55.3

【現状と課題】

江田島市には、相談支援事業所が1か所しかなく、相談窓口が不足しており、障害特性に応じた情報提供が十分に行えていない状況があります。

こうした中、障害者が住み慣れた地域で、自立した生活が営めるようにすることが求められます。

【施策の方向】

障害福祉に関する情報提供や情報特性に応じた相談を身近な場所で受けられるよう、市内の各種法人に知的、精神など障害別の相談窓口を増やすとともに、障害者が社会的自立を図れるよう就労支援を行います。また、合せて地域活動支援センターの委託を行い、就労施設に通所することができない障害者の日中活動の場の確保に努めます。

【主な取組】

○障害者に関する相談対応や活動の場の確保

2 障害者福祉施設の整備

重要度 74.2 / 満足度 55.3

【現状と課題】

江田島市には、就労継続支援A型や就労移行事業所が立地しておらず、障害者の就労ニーズへの対応が十分とはいえません。

【施策の方向】

就労継続支援A型や就労移行事業所が市内にないため、市の空き施設利用誘致などにより開所を支援し、継続して働くことのできる体制の整備に努めます。

【主な取組】

○事業所誘致による障害児通所の場の拡充

第5節 社会福祉の充実

＜施策の目標（目指す姿）＞
支えあい、助けあう地域社会が築かれています

1 セーフティネットの確保

重要度 71.2 / 満足度 55.7

【現状と課題】

社会・経済情勢の変化や雇用・失業情勢の悪化から、生活困窮に陥り、社会保障制度や労働保険制度といった「第1のセーフティネット」では救済できない生活困窮者が増加しており、全国的に生活保護に至るケースが全国的に増加しています。そのため「第1のセーフティネット」以外の新たな社会保障制度の充実・強化が求められ、生活困窮者自立支援制度が創設され、生活困窮に陥る以前に、自立支援策の強化が求められています。

【施策の方向】

生活保護に至る前の段階の自立支援策の強化を図るため、生活困窮者に対し、自立相談支援事業の実施、住居確保給付金の支給等を行うなど、現に経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなる恐れのある者を対象に支援を行います。

【主な取組】

- 相談対応や住宅確保支援など生活困窮者の自立支援
- 自立促進に向けた就職相談
- 給付による生活困窮者の経済的安定支援

2 地域福祉・ボランティアの推進

重要度 71.6 / 満足度 55.5

【現状と課題】

江田島市においても、高齢者や児童などへの虐待、孤立死の問題、災害時に支援が必要な方への対応など、様々な生活課題が顕在化しており、地域福祉の再構築が重要な課題となっています。

【施策の方向】

地域における様々な生活課題を解決するため、高齢者等の見守り活動などの取組を、地域住民と行政が一体となって推進します。また、災害時の要支援者に対する救護や避難支援を行う災害時ボランティアの育成と組織化を地域住民や地域の社会福祉法人等と行政が一体となって推進します。

【主な取組】

- 見守り活動の拡充などによる安心生活の創造
- 地域福祉活動計画に基づくサービスの展開

(頁調整)

写真など

第4章

生活・環境部門

生活と環境を守り、
高めるまち

<将来像>

美しい自然と環境にはぐくまれながら、
市民一人ひとりが互いに尊重しあい、心豊かに暮らせる
『生活と環境を守り、高めるまち』
が築かれています

<分野（節）と基本施策>

第1節 人権尊重と男女共同参画の推進

- 1 人権尊重の社会づくり
- 2 男女共同参画の推進

第2節 公衆衛生の確保

- 1 公衆衛生の確保・環境美化
- 2 ゴミ対策・リサイクルの推進

第3節 自然環境の保全

- 1 地球温暖化対策
- 2 自然環境の保全

生活・環境に関わる“強み”

～主な特色・地域資源、特に活用したいもの・こと～

- ヒューマンフェスタ江田島をはじめとした人権啓発の取組
- 5R^{※1}の推進
- 地域における清掃・美化活動
- 海ゴミ削減に向けた取組（漂着ゴミ、漂流ゴミ、海底ゴミなど）
- 環境教育・学習
- 海と島の自然

※1 5R

Refuse（リフューズ）：拒否，不要な物は受けとらない。Reduce（リデュース）：発生抑制。
Reuse（リユース）：再使用。Recycle（リサイクル）：再資源化。Repair（リペア）：修理。修理して長く使う。

写真など

写真など

第1節 人権尊重と男女共同参画の推進

＜施策の目標（目指す姿）＞

男女が共に認め合い、能力を発揮できる社会が築かれています

1 人権尊重の社会づくり

重要度 69.2 / 満足度 58.0

【現状と課題】

だれもが住みよいと思えるまちを築いていくためには、人権を尊重した差別のない明るい地域社会づくりが大前提となります。

しかし、依然として偏見や差別意識などによる人権問題が見受けられ、市民一人ひとりが人権問題の現状と課題を正しく理解することが求められます。

【施策の方向】

すべての人々の人権が尊重される社会を築いていくため、広報や啓発、教育などを通じて市民一人ひとりが人権に関する現状と課題を正しく理解できるようにするとともに、学習や交流などの場の整備・充実を図ります。

【主な取組】

- 人権意識に関する啓発活動
- 大柿厚生文化センターの大規模改修
- 人権啓発プランの見直し

2 男女共同参画の推進

重要度 66.2 / 満足度 57.9

【現状と課題】

男女共同参画社会の実現に向けての取組は年々向上していますが、性別によって役割を固定化する意識が今なお根強く存在しており、男女が共に認め合い、能力を発揮できる男女共同参画社会の実現へ向けた取組を推進する必要があります。

【施策の方向】

男女が共に認め合い、能力を発揮できる男女共同参画社会の実現に向け、これまでの施策・事業の実施状況の把握と検証を行い、今後の取組を方向づけるとともに、広報・啓発や学習機会の確保、家庭・職場・地域における男女共同参画の促進、あらゆる暴力の根絶などに取り組みます。

【主な取組】

- 第2次男女共同参画基本計画の策定
- 男女共同参画社会づくりの推進（啓発活動、セミナーなど）

第2節 公衆衛生の確保

＜施策の目標（目指す姿）＞

地域ぐるみで5Rと美しい生活環境づくりの取組が進んでいます

1 公衆衛生の確保・環境美化

重要度 72.3 / 満足度 54.4

【現状と課題】

江田島市公衆衛生推進協議会を中心に、環境と健康をコミュニティで守るための実践活動を行っています。また、各町や地区ごとに、一斉清掃を行うとともに、漂流ごみ、海底ごみ対策を進めるなど、自然環境の保全と環境美化に取り組んでいます。

近年においては、「脱温暖化（地球温暖化対策のライフスタイルづくり）」や「次世代を担う子どもたちと一体になった活動」などが重点的な課題となっています。

【施策の方向】

公衆衛生推進協議会等、各種団体と連携し、環境衛生・環境美化意識を高めるための啓発を進めるとともに、地域における公衆衛生・環境美化の取組を促進します。

【主な取組】

- 江田島市公衆衛生推進協議会等の支援による美化意識等の向上
- 不法投棄防止のための啓発及び監視体制等の強化
- 葬斎センターの管理運営

2 ゴミ対策・リサイクルの推進

重要度 73.8 / 満足度 57.3

【現状と課題】

私たち一人ひとりが「もったいない」の精神のもと、5Rを推進し、資源を上手に循環させることができる環境にやさしいしまちを実現することが求められています。

また、広域的に連携しながら、ゴミの適正処理に取り組む必要があります。

【施策の方向】

循環型社会を形成するため、各種団体等と連携しながら、ゴミ排出抑制・減量化やリサイクル及び適正処理を推進します。

【主な取組】

- 市民と連携したゴミ削減とリサイクルの推進
- リレーセンターの適切な運営管理
- 環境センターの適切な運営管理
- 新たな最終処分場の整備
- ゴミの収集・運搬機器の整備（収集車の更新等）

第3節 自然環境の保全

＜施策の目標（目指す姿）＞

恵まれた美しい自然や海が守られ、環境にやさしい取組が
市民に浸透しています

1 地球温暖化対策

重要度 72.9 / 満足度 53.5

【現状と課題】

地球温暖化は、地球全体の環境に深刻な影響を及ぼすものであり、農作物の収穫量の減少や品質低下、高潮や台風等による被害の増加・甚大化、熱中症や感染症の増加による健康への影響など、多岐にわたる問題が指摘されています。

こうしたことから、大気中の温室効果ガスの濃度を安定化させ、地球温暖化を防止することが人類共通の課題となっています。

【施策の方向】

エネルギーを上手に使うことができる地球環境にやさしいまちを目指し、太陽光発電システム等の設置の促進や省エネ・節電対策の推進など、技術革新等を踏まえながら、地球温暖化対策に取り組みます。

【主な取組】

- 太陽光発電促進のための支援
- 地球温暖化対策の推進（計画の見直し・改定）
- 太陽光発電設備に係る固定資産税の減免

2 自然環境の保全

重要度 74.3 / 満足度 53.6

【現状と課題】

江田島市は、多島美の瀬戸内海に位置し、大奈佐美島や絵の島は瀬戸内海国立公園に指定されています。また、古鷹山、クマン岳、砲台山、野登呂山、真道山、陀峯山など特徴的な山々がそびえ、古鷹山森林公園や砲台山創造の森森林公園、真道山森林公園、陀峯山パノラマ展望台などがあります。

こうした海と島の豊かな自然環境を守り生かし、市民生活の豊かさや地域の誇りとしていくとともに、次代に引き継ぐことが求められます。

【施策の方向】

自然と人が仲良く共生できる島を目指し、優れた自然環境や生物多様性の保全に取り組むとともに、自然とのふれあいの場や機会の確保を図ります。

【主な取組】

- 合併浄化槽設置の促進（補助）
- 江田島市環境基本計画の見直し・改定
- 前処理センターの管理運営

<将来像>

日頃から災害や事故などの防止と、
 万一の災害等が発生した場合の備えを整え
 『災害に強く、安心して暮らせるまち』
 が築かれています

<分野（節）と基本施策>

第1節 大規模災害時の危機管理

- 1 大規模災害等に備えた危機管理体制の構築
- 2 地域防災活動への支援
- 3 避難所等の整備

第2節 総合的な消防体制の充実・強化

- 1 消防体制の充実・強化
- 2 救急体制の充実・強化
- 3 火災予防の推進

第3節 暮らしの安全の確保

- 1 防犯・交通安全の確保
- 2 消費者行政の充実

安全・安心に関わる“強み”

～主な特色・地域資源、特に活用したいもの・こと～

- 支えあいのコミュニティ（「共助」の生活文化）
- 市民参加の交通安全・防犯活動
- 大規模森林火災からの復旧、その経験

写真など

写真など

第1節 大規模災害時の危機管理

＜施策の目標（目指す姿）＞
自助・共助・公助を基本とした
大規模災害等に備えた危機管理体制ができています

1 大規模災害等に備えた危機管理体制の構築

重要度 80.3／満足度 51.1

【現状と課題】

江田島市は、大潮の満潮時に水面レベルより下となる地帯があるため、水害の危険性が高く、また山側には、風化花崗岩が広く分布し、集中豪雨等による土砂災害の発生しやすい地形的・地質的特性があります。

こうした中、全国的に局地的な大雨等による激甚な災害が発生しており、災害の広域・複合化も進んでいます。また、南海トラフ巨大地震等の大規模災害の発生も予想されています。

【施策の方向】

災害対策本部を中心とした危機管理体制の構築、情報収集体制の強化、住民の確実な避難等、江田島市全体の災害対応能力の向上を目指し、各種事業を実施します。

【主な取組】

- 地域防災計画及び各種マニュアル等の見直し
- 民間事業者との災害時応援協定の締結推進
- 防災訓練の実施
- 防災資機材の整備
- 災害対策本部の機器整備
- 雨量監視に係るシステムの整備

2 地域防災力の向上

重要度 76.5／満足度 53.8

【現状と課題】

大規模な災害が発生した場合、行政だけの対応では限りがあり、市民各自が防災意識を持ち、地域の人たちと協力して災害に強いまちづくりを行う必要があります。

【施策の方向】

大規模災害派生時の被害を最小限化する「減災」の考え方を市民に周知するとともに、市民が自らを災害から守る「自助」、地域社会がお互いを守る「共助」、そして行政による「公助」の適切な役割分担に基づく防災協働社会を実現するため、自主防災組織の育成及び、地域住民への各種訓練や出前講座などにより防災情報を提供し、地域防災活動への支援を行い地域防災力の向上を目指します。

【主な取組】

- 地域防災リーダーの養成
- 防災意識の啓発
- 地域防災活動の支援

3 避難所等の整備

重要度 78.3 / 満足度 51.7

【現状と課題】

大規模災害が発生した場合、安全に避難し、避難生活に適切に対応できる環境の確保が必要であり、避難所においては、要配慮者や性別、プライバシー等への配慮も求められます。

【施策の方向】

避難所における良好な生活環境の確保に向けた取組方針（内閣府）に基づき、被災者の避難生活に対するきめ細やかな支援を実施するため、要配慮者、男女のニーズの違い等男女双方の視点、プライバシーの確保等に配慮し、避難所設備の充実と改善を行います。

また、大規模災害による交通手段の途絶に備え、備蓄品の分散備蓄を進めます。

【主な取組】

- 災害用備蓄品の確保
- 生活環境や通信設備など避難所の環境整備
- 防災倉庫の整備

第2節 総合的な消防体制の充実・強化

＜施策の目標（目指す姿）＞
消防・救急体制や地域の防災力が向上し、
安全・安心な環境が整っています

1 消防体制の充実・強化

重要度 76.7 / 満足度 57.8

【現状と課題】

近年、日本各地において大規模な災害（集中豪雨、台風、高潮、竜巻等の異常気象）が発生しており、南海トラフ巨大地震による被害も想定されています。

消防の使命でもある市民の安全・安心を守っていくためには、将来を見据えた消防体制づくりが必要不可欠であり、複雑多様化する災害に対応できる人材育成及び資機材等の整備を推進していく必要があります。

【施策の方向】

「市民の安全・安心を守る」を第一義として、消防体制の充実・強化を図ります。

また、各種災害に対応するために、消防本部及び消防団の消防車両、各種災害対応資機材及び防災拠点施設等の更新・整備を進めるとともに、機能の保持に努め、これらの機器を取り扱う消防職団員の人材育成を推進し、災害活動対応能力の向上を図ります。

高機能消防指令センターについては、経年劣化等を調査・把握しながら、継続的に保守管理に努め、消防通信体制を確保するとともに機能向上を図ります。

【主な取組】

- 消防本部及び消防団の装備の充実・強化（車両、資機材等）
- 通信体制の充実・強化
- 消防・救急無線のデジタル化
- 消防本部及び消防団の災害対応能力向上のための人材育成の推進
- 消防団屯所の災害時の機能の充実・強化（非常食、毛布等）
- 防災拠点施設（消防本部・消防団屯所）の整備

2 救急体制の充実・強化

重要度 78.2 / 満足度 57.2

【現状と課題】

人口の減少と高齢化が進む中、救急搬送は高齢者が全体の7割強、また、傷病程度は中等症以上が全体の5割を占めています。

今後も高齢者からの救急要請は増加することが予想され、これら救急需要に対応するためには、より高度な救急応急処置が市民から求められています。

【施策の方向】

高齢化や救急要請の増加・高度化などを考慮しながら、計画的な車両及び救急資機材の更新・整備を行い、更には救急救命士の養成と救急隊員の育成強化により、救命率の向上と救急体制の充実・強化に努めます。

一般負傷事故により救急車で搬送された事例を分析し、その原因及び予防策等を市民に広報

することにより、負傷者の発生を未然防止し、今後も増加が続くと予想される救急需要への対策に向け、危険を予知し事故を未然に防止する「予防救急」に取り組みます。

【主な取組】

- 高度救急救命処置に係る資機材の整備
- 予防救急の推進

3 火災予防の推進

重要度 74.8 / 満足度 57.5

【現状と課題】

高齢化が進展する中で、高齢者の安全を確保する体制づくりが重要となっています。また、火災原因の多数を占めるたき火などの不注意による火災の撲滅を図るため、火気取扱いの注意喚起や防火思想の普及宣伝を推進する必要があります。

【施策の方向】

高齢者の火災予防を推進するため、高齢者世帯への防火訪問指導を実施するとともに、各地域の特性に合わせた防火指導や出前講座などを行います。

市民への火災予防思想の普及を図るため、効果的な広報活動を実施します。

事業所及び危険物施設等の防火安全の確保のため、予防査察の充実・強化を図ります。

職域及び地域の消防力強化のための指導を推進します。

【主な取組】

- 高齢者世帯防火訪問の実施
- 地域防火指導の強化
- 予防査察の強化
- 火災予防広報の充実
- 幼・少年期における防火・防災思想の育成
- 職域・地域の消防力の強化

第3節 暮らしの安全の確保

＜施策の目標（目指す姿）＞

地域ぐるみで防犯や交通安全、消費者保護などに取り組み、
安全・安心なまちが築かれています

1 防犯・交通安全の確保

重要度 76.0 / 満足度 56.2

【現状と課題】

江田島市内の刑法犯認知件数は、平成14年をピークに半減しているものの、平成23年度からは若干増加傾向です。

交通安全対策については、特に子ども・高齢者等の交通弱者の安全確保に留意する必要があります。

【施策の方向】

市民の生活や財産を守るため、警察をはじめ関係機関との連携を強化するとともに、市民の防犯意識の高揚及び防犯対策施設整備の充実を図り、安全・安心なまちづくりを推進します。

交通安全対策については、市民一人ひとりに「人優先」の交通安全思想を普及し、特に子ども・高齢者の交通弱者の安全を確保するよう、市民と行政が一体となって取り組みます。

【主な取組】

- LED防犯外灯の適正な管理
- 栈橋への防犯カメラの設置
- 防犯対策（防犯パトロール、啓発活動）の推進
- 交通安全対策（交通安全意識の啓発）の推進

2 消費者行政の充実

重要度 71.4 / 満足度 56.0

【現状と課題】

消費者の安全・安心を脅かす製品事故や偽装、悪質商法などが社会問題となっています。

また、商品・サービスの多様化やインターネットを利用した商取引など、消費者を取り巻く環境は、急速に変化し、かつ、複雑化しています。

【施策の方向】

消費者被害の防止と救済に適切に対応するため、講座の開催や啓発活動に取り組むとともに、今後とも消費者生活相談窓口を設け、より専門的な知識のある消費生活相談員による適切な助言など、問題解決に向けた相談体制の充実に努めます。

【主な取組】

- 消費生活相談の充実
- 消費生活に関わる情報提供と啓発

第6章

基盤部門

『しっかりとした基盤を備えたまち』

<将来像>

市民生活や都市活動を支える
道路・交通, 上下水道, 住宅, 公園など
『しっかりとした基盤を備えたまち』
が築かれています

<分野(節)と基本施策>

第1節 都市基盤の整備

- 1 道路の整備
- 2 港湾・漁港の整備
- 3 防災対策(河川・急傾斜地)
- 4 上水道の整備
- 5 下水道の整備

第2節 生活基盤の整備

- 1 住宅・住環境の整備
- 2 公園緑地の整備
- 3 計画的な土地利用
- 4 公共施設の再編・整備
- 5 情報通信基盤の整備

第3節 生活交通の確保・充実

- 1 海上交通の確保・充実
- 2 バス等の確保・充実

基盤に関わる“強み”

～主な特色・地域資源, 特に活用したいもの・こと～

- 呉市方面に陸路でつながる道路網(早瀬大橋, 第2音戸大橋経由)
- 広島市と短時間(高速船30分)でつながる海上交通
- サイクリング客の増加
- 多数ある港湾・漁港
- 光回線の整備・活用

写真など

写真など

第1節 都市基盤の整備

＜施策の目標（目指す姿）＞

道路、港湾・漁港、上下水道の整備及び防災対策が進み、
市民生活や経済活動が支えられ、交流人口が増えています

1 道路の整備

重要度 72.6 / 満足度 53.0

【現状と課題】

道路については、江田島市内外との連絡強化による市民生活や産業活動、観光・交流の利便性の向上などとともに、サイクリング客の増加への対応が求められています。

【施策の方向】

江田島市内外との連絡強化を図るため、国道や県道及びそれに接続するネットワークを形成する市道の整備を進めるとともに、サイクリングロードの整備により、交流人口の増加を目指します。

また、老朽化した橋梁等の計画的な補修を行い、施設の長寿命化を図るとともに、通学路の点検など安全な交通環境の確保に取り組みます。

【主な取組】

- 国道・県道の改良促進
- 通学路の安全確保の観点からの市道の改良
- サイクリングロードの整備
- 橋梁の長寿命化（補修）
- 法定外公共物（里道）の改修の支援
- 自主的な清掃・除草活動への支援

2 港湾・漁港の整備

重要度 65.2 / 満足度 58.9

【現状と課題】

港湾・漁港については、市民の通勤・通学や観光・物流・漁業振興を支える重要な基盤施設であり、計画的な整備と適切な管理・運営が必要です。

【施策の方向】

市民の通勤・通学や観光・物流・漁業振興を支えるため、港湾・漁港の計画的な整備を進めるとともに、適切な管理・運営を行います。

また、施設の老朽化に対して点検及び適切な補修を行い、施設の長寿命化を図ります。

【主な取組】

- 港湾・漁港の長寿命化（補修）
- 港湾の改良・整備

※アダプト活動（江田島市アダプト制度）

身近な公共空間である道路などで、学校や企業、地域の皆さんにボランティアによる清掃、除草など美化活動を行っていただき、市がその活動を支援する制度です。

アダプトは英語で「養子縁組をする」という意味で、清掃活動や緑化活動などを通じて、道路などの公共空間を「わが子のように面倒をみる」ことをアダプト活動と呼んでいます。

3 防災対策（河川・急傾斜地）

重要度 74.2 / 満足度 54.1

【現状と課題】

近年、地球温暖化と相まって、集中豪雨や台風による洪水・高潮・がけ崩れ等の自然災害が頻繁に発生し、大規模化しています。

市街地等の浸水防止のための雨水ポンプ場施設は、老朽化が進み主要な設備、機器の更新・整備が急務となっています。

【施策の方向】

集中豪雨や台風による洪水・高潮・がけ崩れ等の自然災害から市民の生命・財産を守るため、砂防、急傾斜地の整備や高潮対策等の防災事業を計画的に実施します。

雨水ポンプ場施設については、点検・診断に基づく長寿命化計画を策定し、予防的な機器の更新、整備を適切な時期に実施します。

【主な取組】

- 砂防ダム・流路の整備（県営砂防事業）
- 低地帯の生活排水路の整備
- 急傾斜地の崩壊防止対策
- 海岸の保全（護岸・消波ブロック等の整備）
- 法定外公共物（河川）の改修の支援
- 雨水ポンプ場の長寿命化

4 上水道の整備

重要度 71.1 / 満足度 60.2

【現状と課題】

水道施設が老朽化しており、大規模災害に対してライフラインの確保が困難であると想定されるため、施設の耐震化が喫緊の課題となっています。特に昭和 37 年に布設した石綿セメント管は地震に対し非常に脆弱であり、ひとたび災害が起きると甚大な被害が予想されるため、早期に耐震管へと更新する必要があります。

しかしながら、水道料金等の収入が伸び悩むと同時に、石綿セメント管の更新の国庫補助制度が廃止されており、様々な制度の活用など、財源の確保に努める必要があります。

【施策の方向】

様々な補助制度等の活用や緊急度・優先度を検討しながら、配水管の耐震化や海底管の布設、配水池の築造など水道施設の整備を計画的に進めます。

【主な取組】

- 重要給水施設の配水管の耐震化
- 前早世浄水場や配水管理センターの整備
- 第二配水池の築造
- 配水管の整備（秋月地区、大原地区、江田島中央地区、小用地区、鷺部地区、江田島地区、大柿地区、）
- 海底管の布設工事の検討及び整理に基づく対応

5 下水道の整備

重要度 70.3 / 満足度 56.5

【現状と課題】

下水道は、市街地における雨水の排除による浸水防止、汚水の速やかな排除、水洗化による生活環境の改善、公共用水域の水質保全という役割を持ち、健康で文化的な生活を営むために必要不可欠な施設です。

また、下水道整備には多額の経費と時間を要するため、市民の要望に対して整備が追いついていないことから、将来を見据え情勢変化に応じた整備手法の検討などが必要です。

【施策の方向】

公共用水域の水質保全や市民の生活環境の向上などに資するため、今後とも計画的に下水道の整備と水洗化を進めるとともに、老朽化した下水道処理施設の長寿命化対策を実施し、効率的な下水道事業の運営と経営の安定化を図ります。

また、下水集合処理と個別処理の区域の見直しを行い、将来を見据え情勢変化に応じた整備手法によって、計画的かつ効率的な整備を図ります。

【主な取組】

- 公共下水道の整備
- 下水処理施設の長寿命化
- 下水処理施設の維持管理

第2節 生活基盤の整備

＜施策の目標（目指す姿）＞
**住宅や公園，公共施設，情報通信基盤など，
安心・便利で快適な生活を支える基盤が整っています**

1 住宅・住環境の整備

重要度 68.1／満足度 57.0

【現状と課題】

少子高齢化に伴い，家族構成の変化やライフスタイルが変化し，居住ニーズも多様化している一方で，人口減少による空き家の増加や管理不全による廃屋化など，住環境への悪影響が懸念されています。

また，民間住宅の耐震化率は，県内平均と比較して非常に低く，市耐震改修促進計画の目標値の達成が困難な状況となっています。

【施策の方向】

市営住宅については，居住水準の向上に向け，建て替えや既存ストックの長寿命化などに取り組み，より快適で安心できる環境づくりを進めます。

民間住宅については，危険家屋の除却や木造住宅の耐震診断，耐震改修を促進することで，市民の生命，身体及び財産を保護し，地震を含めた防災への市民の意識の高揚と耐震化率の向上を図ります。

【主な取組】

- 市営住宅の建替や改修
- 危険家屋除却の促進
- 木造住宅の耐震診断及び耐震改修の促進
- 耐震改修促進計画の改定

2 公園緑地の整備

重要度 64.0／満足度 55.4

【現状と課題】

人口の減少などに伴い，利用度の低い公園が増えており，その結果，管理面での負担が増加しています。

【施策の方向】

地域の実情や将来を見据えた公園緑地の整備と有効活用を図るため，地域への公園管理の委託を進めるとともに，公園全体の見直しを行い，配置を含めて存廃についても検討を行います。

【主な取組】

- 市民参加型の公園管理の推進
- 公園緑地の管理・活用計画の策定
- 計画を踏まえた公園緑地の整備・更新等

3 計画的な土地利用

重要度 69.7 / 満足度 51.1

【現状と課題】

土地利用の現状は、密集した市街地や集落地及びその中での空き家の増加、低・未利用地の存在、耕作放棄地の拡大などの問題点があります。

【施策の方向】

都市計画マスタープランを基軸に、適切な規制・誘導を行い、都市的土地利用と自然的土地利用が調和した市街地等の形成に努めます。

【主な取組】

- 都市計画マスタープランの改定
- 大規模未利用地の活用検討
- 中心市街地活性化の検討

4 公共施設の再編・整備

重要度 69.9 / 満足度 52.8

【現状と課題】

江田島市内の公共施設は、多くの施設が築 30 年以上を経過し、老朽化や更新時期を迎えようとしています。

また、年間の利用者数が著しく少ない施設や、近隣に類似機能を有する施設、耐震基準を満たしていない施設も見受けられます。

【施策の方向】

安全な公共施設と健全な財政を次世代に引き継ぐために、将来のまちづくりを見据えた公共施設の再編・整備に取り組むと同時に、地元との連携による新たな活用を探ります。

【主な取組】

- 公共施設の再編・整備
- 庁舎の再編・整備
- 沖美市民センターの建設

5 情報通信基盤の整備

重要度 71.8 / 満足度 52.3

【現状と課題】

平成 25 年から平成 26 年において、超高速ブロードバンド網が整備され、一般向け回線の通信スピードが格段に向上したことにより、市民生活の利便性・快適性や企業の生産性の向上、更には定住の条件整備などにつながることを期待されます。

一方、光回線の活用策や近年急速に普及してきたスマートフォンなどのタブレット端末向けの施策は未実施です。

【施策の方向】

情報通信技術の進歩や住民ニーズに留意しつつ、情報通信基盤の整備・活用に向けた取組を進めます。

【主な取組】

- 主要観光施設への情報インフラの整備（再掲）
- 外部向けストレージの整備（セキュリティー保持によるデータの受渡し対策）
- 光回線の活用促進（市外からの移転企業や起業家の接続支援）

- 難視共聴組合の施設移設への支援
- 市の情報発信力の強化

第3節 生活交通の確保・充実

＜施策の目標（目指す姿）＞
日常生活や交流を支え，安心して暮らせる
公共交通が確保されています

1 海上交通の確保・充実

重要度 79.7 / 満足度 48.9

【現状と課題】

フェリー，高速船の利用者の減少による収入の減少などに加え，近年の燃料費の高騰により，各航路事業者の経営環境は非常に厳しい状況にあります。

【施策の方向】

海に囲まれた江田島市にとって，航路は市民生活に不可欠な存在であることから，陸上交通と一体となった，持続可能な公共交通の確立に向けて，市全体における望ましい航路運営体制の構築を進めます。

【主な取組】

- 市旅客船の公設民営化
- 地域公共交通のあり方に関する計画策定
- 生活航路の維持・確保に係る支援
- 市旅客船の更新
- 公共交通の利用促進やサービス向上に資する取組や施設整備等の支援
- 公共交通に関する啓発

2 バス等の確保・充実

重要度 74.8 / 満足度 48.5

【現状と課題】

近年の人口減少やマイカー利用の増加等により，公共交通の利用者は減少傾向にあります。一方で高齢化が進み，マイカーを自由に利用できない高齢者を中心に，公共交通へのニーズは高まりつつあります。

また，合併による生活圏域の広域化等により市民の移動ニーズは多様化しており，こうしたニーズに対応した効果的，効率的な公共交通サービスの構築が急務となっています。

【施策の方向】

公共交通の利用状況やニーズ，地域の実情を考慮した役割・効果などを総合的に検討しながら，江田島市を支える持続可能な公共交通体系の構築を図ります。

【主な取組】

- 市公共交通協議会の運営
- 生活交通路線等の維持・確保に係る支援
- 公共交通の利用促進やサービス向上に資する取組や施設整備等の支援（再掲）
- 公共交通に関する啓発（再掲）
- 陸上交通車両の利用促進に資する整備への支援
- 路線バスの車両更新（購入）の支援

第7章

地域部門

地域が元気で、にぎやかなまち

<将来像>

市民相互や都市部の人との様々な交流やふれあいが生まれ、
UJIターンによる定住も多くなり、
『地域が元気で、にぎやかなまち』
が築かれています

<分野（節）と基本施策>

第1節 都市との交流・定住の促進

- 1 都市との交流の促進
- 2 定住促進策の推進

第2節 コミュニティの振興

- 1 自治会等の地域活動への支援
- 2 国際化・多文化共生の推進
- 3 地域活動拠点の整備

地域に関わる“強み”

～主な特色・地域資源、特に活用したいもの・こと～

- 交流・定住に関わる取組：空き家バンク，おためし暮らし，体験ツアーなど
- 過ごしやすい気候
- 海と島の自然
- 地域・地区ごとのコミュニティ活動
- 伝統行事やイベント（市民主体，市民参加）

写真など

写真など

第1節 都市との交流・定住の促進

＜施策の目標（目指す姿）＞

江田島市の魅力と定住促進策が都市住民等に伝わり、
移住者が増え、生き生きとした暮らしが営まれています

1 都市との交流の促進

重要度 66.9 / 満足度 54.4

【現状と課題】

人口減少に歯止めがかからない現状を鑑みると、都市住民との交流を通じて、交流人口の増加、更には定住促進を図る必要があります。

また、江田島市の魅力が、都市住民に十分に伝わっていない面があると考えられます。

【施策の方向】

都市住民との交流を通じて交流人口の増加を図るための事業を推進します。

また、都市部の意欲ある人材を受入れ、地域の活性化を図るため、移住者の地域おこし活動の支援や農林水産業の応援、生活支援などを行う「地域おこし協力隊」事業を推進します。

【主な取組】

- 体験型修学旅行の受入
- 地域おこし協力隊の導入

2 定住促進策の推進

重要度 72.3 / 満足度 51.4

【現状と課題】

主な定住促進策として、空き家バンク、おためし暮らし、定住促進事業補助金、江田島市や施策の紹介（ええとこじゃけん江田島）、移住者交流会の開催などに取り組んでいます。

【施策の方向】

江田島市への定住を促進するため、各種の定住促進策を充実させるとともに、移住後のミスマッチが生じないように、移住者交流会等アフターフォローを行います。

【主な取組】

- えたじま暮らし体験の促進（おためし暮らしの家、空き家見学ツアー、定住者や地域との交流会等）
- 移住者の住居確保支援
- 婚活イベントの開催（市内外の未婚者のマッチング）
- 空き家バンク登録物件の清掃費補助

第2節 コミュニティの振興

＜施策の目標（目指す姿）＞

様々な地域活動などが活発に行われ、
世代間や住民相互の交流、多文化共生が深まっています

1 自治会等の地域活動への支援

重要度 68.1 / 満足度 56.3

【現状と課題】

自治会等で中心となって活動するリーダーの高齢化や不足により、その活動の持続が難しくなることが心配されます。

【施策の方向】

持続可能な地域自治組織を育てていくため、「まちづくり協議会」の設置及びその充実などに取り組みます。

【主な取組】

- 自治会連合会の支援や市女性会連合会の活動支援
- まちづくり協議会等の団体の活動支援（活動事業、地域提案型事業）

2 国際化・多文化共生の推進

重要度 60.2 / 満足度 56.6

【現状と課題】

江田島市には、平成26年4月1日現在561人（住民基本台帳）の外国人が暮らしており、その中には外国人研修生なども含まれ、様々な交流活動を行っています。また、「島から世界へ～21世紀を主体的に心豊かに生きる～」をテーマに掲げて、教育・人づくりに取り組んでいます。

平成26年度においては、外国人市民の諸課題における交流と支援策を検討するため、江田島市外国人市民交流推進協議会を設置しました。

さらに、国立江田島青少年交流の家における江田島海色国際交流事業など、国際的視野を身に付けた次世代のリーダーの育成などが行われています。

【施策の方向】

すべての市民が、国、地域、民族など、言葉や文化の違いによらず、互いが尊重され、対等の関係を保ちながら、地域の一員としてともに暮らせるよう、多文化共生の社会の実現に取り組みます。

【主な取組】

- 多文化共生推進プランの策定
- 外国人市民交流推進協議会の運営
- 外国人市民に対する日本語学習の支援
- 外国人市民とのスポーツ・文化交流の推進

3 地域活動拠点の整備

重要度 64.3 / 満足度 56.0

【現状と課題】

それぞれの地域・地区に集会施設等があり、その中には老朽化している施設や近隣に類似施設が立地している場合、利用度が低い施設などがあります。

これら施設をすべて維持していくことは困難な状況にあり、人口減少や厳しい財政状況の中で、持続的に運営管理できる地域活動拠点を、いかに確保していくかを検討する必要があります。

【施策の方向】

持続的に運営管理できる集会施設等を確保・充実するため、近隣に位置する類似施設の統廃合や複合化などに努めながら、市民の利便性やニーズに対応した地域活動拠点の確保と施設・設備の機能向上に取り組みます。

【主な取組】

- まちづくり関連施設の維持管理
- まちづくり団体の支援（活動施設の備品整備）

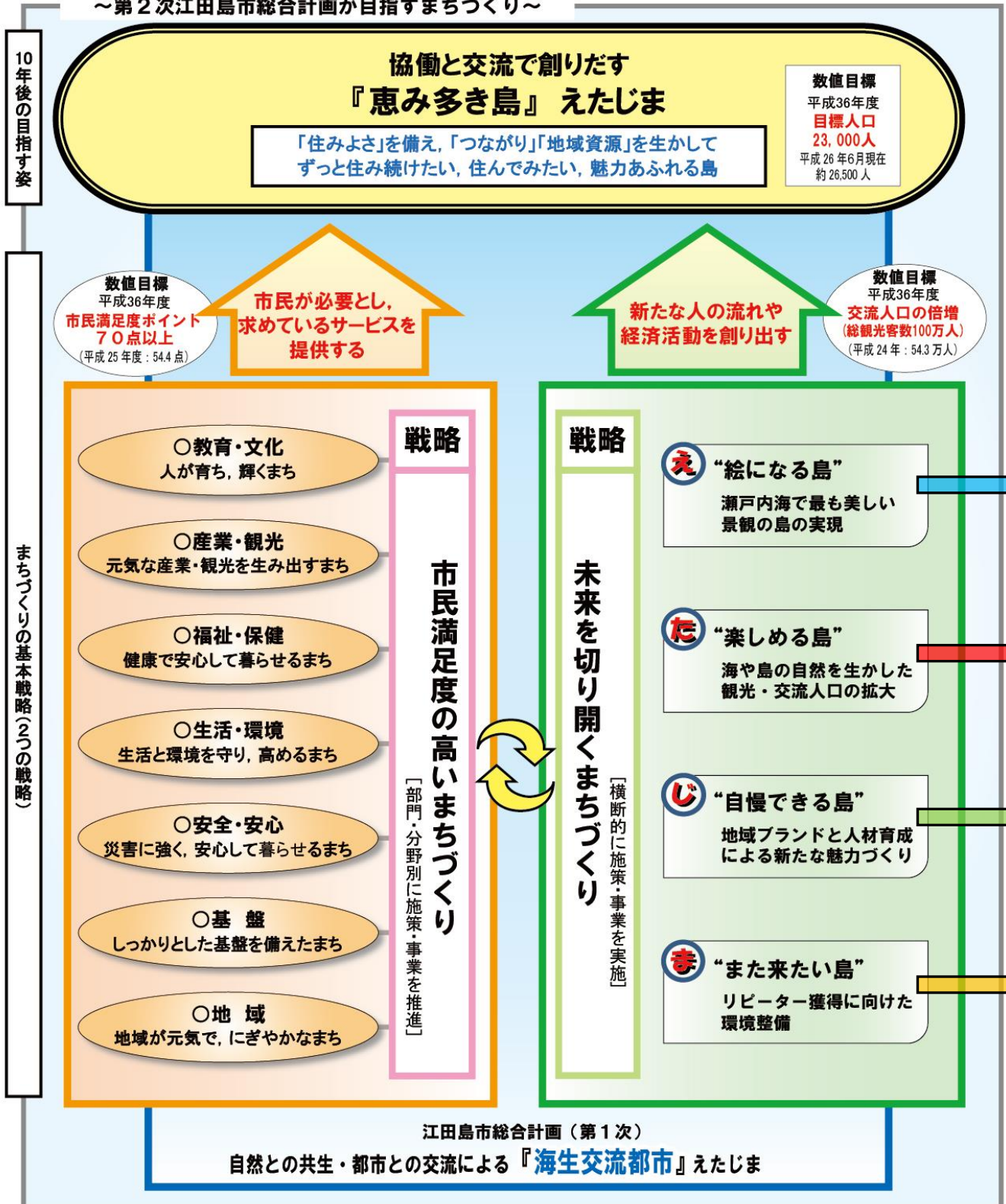
第2部 未来を切り開くまちづくりプロジェクト

第1章 未来を切り開くまちづくりプロジェクトの設定

江田島市の10年後の目指す姿「協働と交流で創り出す『恵み多き島』えたじま」の実現に向け、2つの戦略を設定しています。

このうち未来を切り開くまちづくりについては、7つの部門からなる市民満足度の高いまちづくりにおける施策・事業と連動させ、4つの柱である「え・た・じ・ま」に基づいたプロジェクトを設定します。

～第2次江田島市総合計画が目指すまちづくり～



<プロジェクト名>

<プロジェクトの柱(取組の方向)>



え 「絵になる島」づくりプロジェクト

- 1 海と川の美しい環境づくり
- 2 島の緑の再生・活用
- 3 公園緑地の魅力づくりと有効活用
- 4 環境美化・景観づくりに関わる活動の促進



た 「楽しめる島」づくりプロジェクト

- 1 多彩な体験型観光・イベントの展開
- 2 アクティビティの島づくり



じ 「自慢できる島」づくりプロジェクト

- 1 島ならではの教育・スポーツによる人づくり
- 2 えたじまブランドづくり



ま 「また来たい島」づくりプロジェクト

- 1 おもてなしの島づくり
- 2 交通と宿泊施設の充実・強化
- 3 交流・定住の条件整備

第2章 『え・た・じ・ま』プロジェクトの展開

第1節 「絵になる島」づくりプロジェクト

【基本テーマ】

瀬戸内海で最も美しい景観の島の実現

江田島市の最大の地域資源は、美しい海と島の豊かな自然です。この恵まれた自然を次世代に引き継ぎ、さらなる美化に努めることで、瀬戸内ならではの多島美を生かした、市民だけでなく、市外の人にとっても癒やしや安らぎにつながる、瀬戸内海で最も美しい景観の島を目指します。

プロジェクトの柱（取組の方向）と主な取組

1 海と川の美しい環境づくり

江田島市の四方を囲む海は、カキ養殖をはじめとした水産業の場であるとともに、歴史文化を培い、環境や景観を特徴づけ、生活する人のみならず、来訪者にとっても大きな魅力となっています。また、江田島市には海だけでなく、小さいながらも河川が幾筋も流れ、水と緑の環境に育まれた貴重な生態系、うるおいのある景観が息づいています。

こうした海や川の環境・景観をより高めていくため、下水道の整備などによって水質の浄化を図るとともに、関係団体等と協力しながら、海浜・海底清掃など海域の浄化に向けて取り組みます。

【主な取組】

- 漁場環境の改善（海域の浄化など）〔水産業の振興〕
- 合併浄化槽設置の促進〔自然環境の保全〕
- 公共下水道・特定環境保全公共下水道の整備〔都市基盤の整備（下水道の整備）〕

2 島の緑の再生・活用

江田島市の魅力である景観の美しさは、海や海辺、歴史的建造物などと合わせて、島の山々や斜面地等にかかれた農地の緑も重要な構成要素です。また、山々の緑は、水源のかん養や生物多様性の確保など様々な公益的機能を担い、江田島市を代表するカキ養殖とも密接に関係します。

しかし一方で、森林の保全・管理が十分でない状況や耕作放棄地の拡大がみられます。

このため、関係権利者や市民・関係団体等の協力を得ながら、森林の保全などに努めるとともに、農地の荒廃防止対策やオリーブなどの栽培促進に取り組み、島を彩る緑の景観づくりと地域の活性化を目指します。

【主な取組】

- 計画的な間伐等による森林の保全と防災対策〔農林業の振興〕
- オリーブ栽培等の促進〔農林業の振興〕
- 農地流動化の促進（農地の荒廃防止対策）〔農林業の振興〕

※ [] 内は該当する分野（以下同様）

3 公園緑地の魅力づくりと有効活用

江田島市には、街区公園，近隣公園，地区公園，特定地区公園（カントリーパーク），運動公園などの都市公園とともに，真道山森林公園，砲台山創造の森公園，鹿川水源地公園など自然を生かした多彩な公園緑地もあります。こうした公園は，休息や遊び，レクリエーション，防災など多様な機能を担っていますが，公園によっては利用度に差がみられます。

このため，子どもから高齢者までが利用しやすく，うるおいと安らぎのある環境・景観などを形づくる公園緑地について，幅広くニーズを把握し，管理・活用に関する計画を作成したうえで，レクリエーション・健康増進・自然とのふれあい・交流・防災などの機能が発揮できる公園緑地の整備・更新などを進め，市民に憩いの場を提供するとともに市外からの利用者増加にもつなげます。

また，管理については，市民参加と協働により進めます。

【主な取組】

- 市民参加型公園管理の推進 [生活基盤の整備（公園緑地の整備）]
- 公園緑地の管理・活用計画の策定 [生活基盤の整備（公園緑地の整備）]
- 計画を踏まえた公園緑地の整備・更新等 [生活基盤の整備（公園緑地の整備）]

4 環境美化・景観づくりに関わる活動の促進

地域の環境・景観を高めていくには，市民・地域活動団体等の協力・参加が不可欠です。江田島市では環境美化活動や公園の管理などにおいて，市民の力が発揮されており，こうした市民参加の取組をさらに発展させることが期待されます。

このため，市民参加の実績・経験を生かしながら，海辺や公共空間などの美化，森の再生，美しい景観づくりなどに関わるコミュニティ活動，まちづくり団体の支援に取り組みます。

【主な取組】

- まちづくり団体の支援 [コミュニティの振興]
- 自主的な清掃・除草活動への支援 [都市基盤の整備（道路の整備）]
- 市民参加型公園管理の推進 [生活基盤の整備（公園緑地の整備）]

第2節 「楽しめる島」づくりプロジェクト

【基本テーマ】

海や島の自然を生かした観光・交流人口の拡大

江田島市は、サイクリングやトレッキング、カヌーをはじめとしたマリレジャー、キャンプ、みかん狩りなどの農業・漁業体験などアクティビティの宝庫です。こうした島の魅力を生かして、市内外の人々が集まり、気軽にアクティビティを楽しめる島を目指します。

プロジェクトの柱（取組の方向）と主な取組

1 多彩な体験型観光・イベントの展開

有名な名所・旧跡、観光施設などがない地域においても、農山漁村の暮らし体験、創作・ものづくり、スポーツ・レクリエーション、そして地域の人と来訪者の交流など、体験型の観光やイベントなどによって、多くの来訪者が訪れ、地域が活性化している事例が多数あります。江田島市においても、体験型の様々な観光・交流・定住の取組を進めており、さらにニーズ等を踏まえて、メニューの充実・開発が求められます。

このため、江田島市の特色を生かした体験型の観光やイベントのブラッシュアップとともに、新たなメニュー開発に取り組めます。

【主な取組】

- ヒロシマMIKANマラソン大会の開催 [スポーツの振興]
- かきカキマラソン大会の開催 [スポーツの振興]
- 観光イベントの支援 [観光の振興]
- 観光体験メニューの開発推進 [観光の振興]

2 アクティビティの島づくり

江田島市には、自然と文化、食を満喫しながら、サイクリングに親しむことのできる「かきしま海道サイクリングロード」として、多くのサイクリング客が訪れており、本市としてもサイクリングマップの作成やサイクリングロードの整備などに取り組んでいます。また、ヒロシマMIKANマラソン大会、かきカキマラソン大会を毎年開催しているとともに、平成26年には全国からの参加者が、カヌー・自転車・登山を通じてアウトドアスポーツに親しむ「江田島SEA TO SUMMIT」が開催されました。

こうした取組や経験、そして江田島市の地域資源を生かしながら、多彩なアクティビティを体験できる島として、交流人口の拡大と地域の活性化を図ることが期待できます。また、こうした取組は、市民自らがスポーツなどに親しむこと、来訪者等へのホスピタリティを醸成することにもつながります。

このため、海と山の自然、景観、文化、食などを生かしながら、自転車、カヌー、登山、マラソンなどを気軽に体験できる環境づくりや活動支援の取組を進めます。

【主な取組】

- 多彩なマラソン大会等の開催（ヒロシマMIKAN、かきカキ：再掲）[スポーツの振興]

- サイクルステーションの整備 [観光の振興]
- 観光案内板の整備 [観光の振興]
- カヌー・登山・サイクリングなどアウトドアスポーツの振興 [観光の振興]
- サイクリングロードの整備 [都市基盤の整備 (道路の整備)]

第3節 「自慢できる島」づくりプロジェクト

【基本テーマ】

地域ブランドと人材育成による新たな魅力づくり

江田島市は、旧海軍兵学校に代表される歴史・文化資産に加え、国内有数の生産量を誇る牡蠣をはじめとした3F（フルーツ・フラワー・フィッシュ）の産地です。こうした資源にオリーブなど新たな取組を組み合わせ、県内外に自慢できるブランドや特産品のある島を目指します。

また、島ならではの特色のある教育や、県内・全国レベルで通用する文化・スポーツ活動を推進することにより、地域に愛着があり、かつ、市民の誇りとなる文化人やスポーツ選手、将来の江田島市を支える人材などを輩出する島を目指します。

プロジェクトの柱（取組の方向）と主な取組

1 特色ある教育・スポーツによる人づくり

教育・スポーツは、子どもたちを健やかに育てる大きな役割を担っているとともに、生涯にわたって学び、スポーツに親しむことは、一人ひとりの心や体の健康をはぐくんだり、コミュニティを活性化したりすることになります。さらに、特色ある教育やスポーツの環境を築いていくことは、交流・定住の条件や魅力を高めることにもつながります。

このため、島ならではの特色・資源を見だし、生かしながら、市への愛着を育むとともに、江田島市の学校に通いたい、活動に参加したいと思えるような、学校教育、生涯学習及びスポーツの振興に取り組みます。

【主な取組】

- 里海を教育資源とした体験活動の推進 [学校教育の充実]
- 英語教育の充実等による国際教育の推進 [学校教育の充実]
- 公民館学習支援や交流機会の提供 [生涯学習の充実]
- 優れた文化・伝統文化の保存・継承の推進 [生涯学習の充実]
- 市民が気軽に楽しめるスポーツの振興 [スポーツの振興]
- スポーツ施設の修繕 [スポーツの振興]

2 えたじまブランドづくり

江田島市には、様々な食材や料理、特産品がありますが、まだまだそれらの活用・PRの余地はあり、現在ある特産品等のブラッシュアップと新たな食や特産品づくり、そのブランド化によるPRは、「自慢できる島」にとって不可欠といえます。

このため、江田島市において生産・漁獲される一次産品のブランド化、及び6次産業化等による特産品づくりとブランド化、島ならではの食・料理づくりの促進とともに、特産品等の流通・販売体制の強化などに取り組みます。

【主な取組】

- 農産物の6次産業化の推進 [農林業の振興]

- オリーブ栽培等の振興（再掲） [農林業の振興]
- かきのPRなどによる特産品づくりの促進 [水産業の振興]
- 水産加工施設の整備などによる流通・販売体制の強化 [水産業の振興]
- 起業や新業種参入の促進 [商工業の振興]

第4節 「また来たい島」づくりプロジェクト

【基本テーマ】

リピーター獲得に向けた環境整備

新たな人の流れを大きくするには、本市へのリピーターを増やしていく必要があります。来島者へのホスピタリティ（おもてなし）の向上に加え、島の魅力を生かしたイベント開催や交流施設の充実、2地域居住の推進などにより、四季を通じて、繰り返し訪れてもらえる島を目指すとともに、住んでみたいと思ってもらえる島を目指します。

プロジェクトの柱（取組の方向）と主な取組

1 おもてなしの島づくり

来訪者が、訪れた地域により印象を持ち、また来たいと思いを抱くには、アクセスの段階を含め、訪れた場におけるおもてなし、人との交流のあり方、情報提供などが大きく影響します。

このため、リピーターを増やすような観光ボランティアの養成を行うとともに、おもてなしの視点を大切にしながら、直売施設の整備、観光体験メニューの開発、交流活動の開催、情報の受発信などに取り組みます。

【主な取組】

- 観光ボランティアの養成 [観光の振興]
- 観光体験メニューの開発推進（再掲） [観光の振興]
- 交流・定住推進活動の支援 [都市との交流・定住の促進]
- 共同キャンペーンなどの他市との共同による広域誘客の促進 [観光の振興]
- 主要観光施設への情報インフラの整備 [観光の振興]
- 市の情報発信力の強化 [情報通信基盤の整備]

2 交通と宿泊施設の充実

江田島市への来訪者を増やしていくためには、観光・交流資源の魅力づくりやおもてなしなどと合わせて、移動や滞在の基礎的な条件となる交通機関と宿泊施設の充実が求められます。また、宿泊施設については、それ自体が観光客を吸引するような魅力を持つことが期待されます。江田島市には、海の上に建つという特色を持つ国民宿舎・能美海上ロッジがありますが、建設から40年以上が経過し、老朽化が進むとともに、宿泊客数は停滞傾向にあります。

このため、航路やバス路線等の維持・確保を図るとともに、市内の宿泊機能のあり方について検討整理し、来訪者の増加に向けた取組を行います。

【主な取組】

- 地域公共交通のあり方に関する計画策定 [生活交通の確保・充実]
- 生活航路の維持・確保 [生活交通の確保・充実]
- 生活交通路線等の維持・確保に係る支援 [生活交通の確保・充実]

- 陸上交通車両の利用促進に資する整備への支援 [生活交通の確保・充実]
- 公共交通の利用促進やサービス向上に資する取組や施設整備等の支援 [生活交通の確保・充実]
- 路線バスの車両更新（購入）の支援 [生活交通の確保・充実]
- 宿泊施設のあり方検討及び整理に基づく対応 [観光の振興]

3 交流・定住の条件整備

江田島市へのリピーターを増やすことは、観光客数を増加させることが第一義的な目標ですが、さらに、リピーターなどの中から、定住者を確保することも重要な課題です。

このため、交流・定住の促進に向けた暮らし体験、居住支援に取り組むとともに、リピーターを増やす視点も取り入れながら、観光体験メニューの開発を進めます。

【主な取組】

- 観光体験メニューの開発推進（再掲）[観光の振興]
- えたじま暮らし体験の促進 [都市との交流・定住の促進]
- 移住者の住居確保支援 [都市との交流・定住の促進]

(頁調整：白)

資料編

I 江田島市総合計画策定審議会

諮問・答申, 名簿

II 計画策定体制

Ⅲ 江田島市まちづくりアンケート調査結果の概要

【アンケート調査の実施概要】

■調査の目的

本アンケート調査は、第2次江田島市総合計画が地域の実情や個性を反映し、幅広い協力と参加を得ながら、まちづくりを推進していくものとなるためには、市民の意見・意向を反映していくことが大切と考え、幅広く市民の意向などを把握することを目的とします。

■調査対象

16歳以上の江田島市民のうちから、2,000人（無作為抽出）

■調査日程

配布：平成25年8月7日(水)

回収締切：平成25年8月30日(金)※平成25年9月6日分まで受付

■アンケート回収状況 回収数：693票 回収率：34.7%

1 施策（江田島市の取組）に対する市民からみた重要度・満足度

- 市民からみた各施策（68項目について聞いています。）の満足度（以下「市民満足度」といいます。）を、教育・文化、産業、福祉・保健、生活・環境、安全・安心、基盤、地域、その他の部門別にまとめ、その平均を求めると、いずれも50点台となっています。また、個別的にみると、60点（100点満点とした場合）を超えているのは「上水道の整備」だけとなっています。それ以外は50点台が中心で、一部は40点台の項目があります。
- 市民からみた各施策の重要度（以下「市民重要度」といいます。）については、地域以外の部門では70点（100点満点とした場合）を超え、特に安全・安心と福祉・保健で高くなっています。また、個別的にみると「医療機関の充実」、「災害に備えた危機管理体制の構築」、「学校教育の内容」は80点を超えています。
- このように、市民満足度と重要度に乖離が生じており、市民満足度のアップが求められます。

図 分野別の重要度ポイント、満足度ポイント

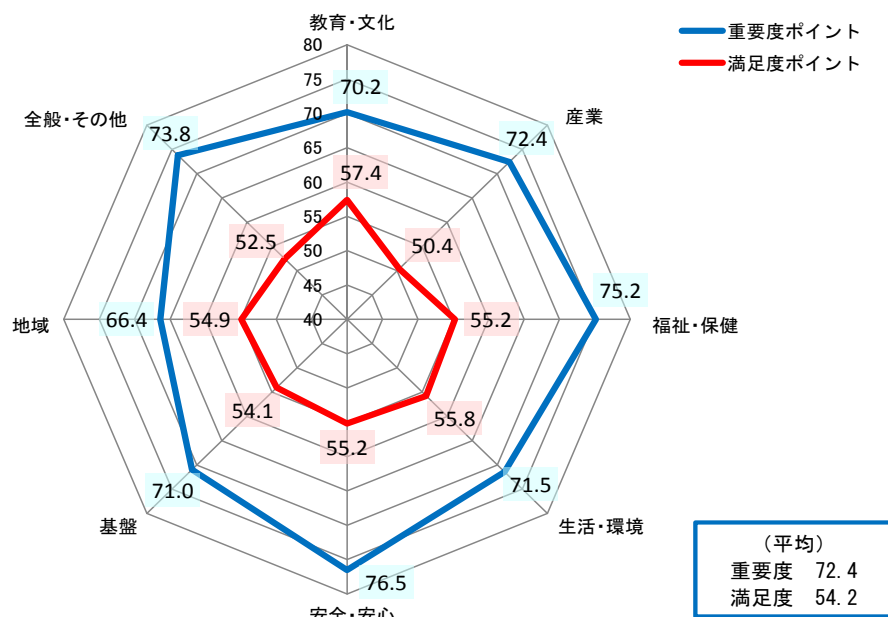
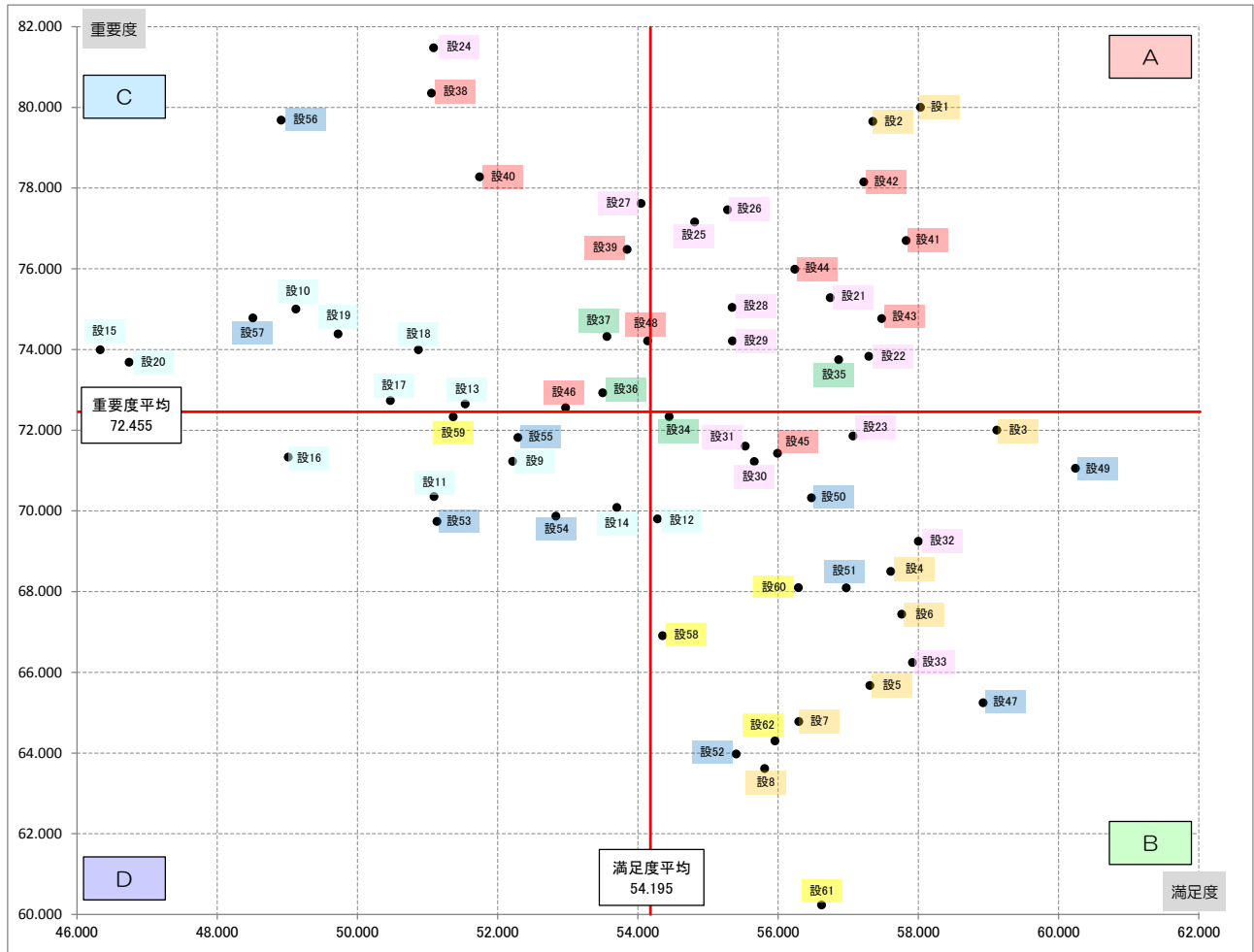


表 基本施策別重要度・満足度の状況

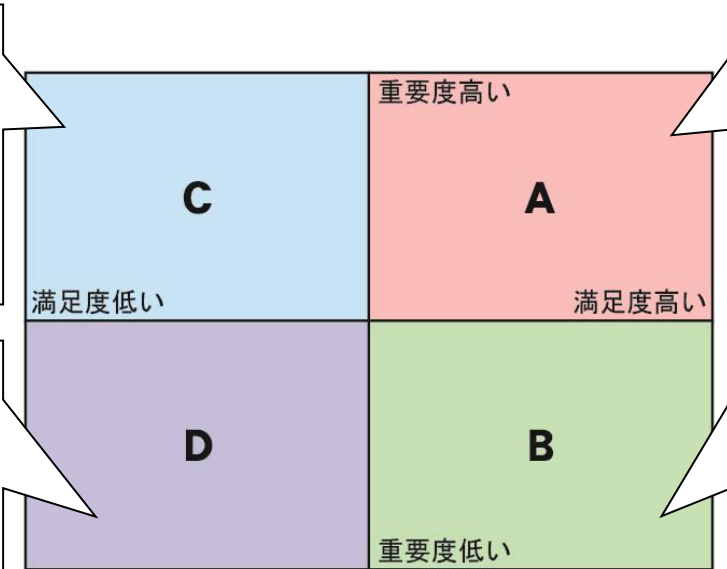
部門	区分	設問／回答区分（基本施策）	重要度 ポイント	満足度 ポイント	分類
教育・文化	設1	問2-1 学校教育の内容（小中学校）	80.0	58.0	A
	設2	問2-2 学校と地域・家庭との信頼関係	79.6	57.4	A
	設3	問2-3 学校施設の整備	72.0	59.1	B
	設4	問2-4 生涯学習活動の支援	68.5	57.6	B
	設5	問2-5 社会教育施設の整備	65.7	57.3	B
	設6	問2-6 伝統文化・文化財の保護	67.4	57.8	B
	設7	問2-7 スポーツ・レクリエーションの普及・振興	64.8	56.3	B
	設8	問2-8 社会体育施設の整備	63.6	55.8	B
産業・観光	設9	問2-9 農林業の生産基盤の整備	71.2	52.2	D
	設10	問2-10 農林業の後継者・担い手の育成	75.0	49.1	C
	設11	問2-11 農林産物の高付加価値化・ブランド化	70.4	51.1	D
	設12	問2-12 水産業の生産基盤の整備	69.8	54.3	B
	設13	問2-13 水産業の後継者・担い手の育成	72.6	51.5	C
	設14	問2-14 水産物の高付加価値化・ブランド化	70.1	53.7	D
	設15	問2-15 企業誘致の推進	74.0	46.3	C
	設16	問2-16 創業・起業への支援	71.3	49.0	D
	設17	問2-17 地場産業への支援	72.7	50.5	C
	設18	問2-18 労働者福祉の向上	74.0	50.9	C
	設19	問2-19 観光資源の発掘・魅力づくり	74.4	49.7	C
	設20	問2-20 宿泊・観光施設の整備	73.7	46.7	C
福祉・保健	設21	問2-21 子育て支援サービスの充実	75.3	56.7	A
	設22	問2-22 保育園・児童館等の整備	73.7	56.9	A
	設23	問2-23 保健・健康づくりサービスの充実	71.9	57.1	B
	設24	問2-24 医療機関の充実	81.5	51.1	C
	設25	問2-25 高齢者福祉サービスの充実	77.2	54.8	A
	設26	問2-26 介護サービスの充実	77.5	55.3	A
	設27	問2-27 高齢者福祉・介護施設の整備	77.6	54.0	C
	設28	問2-28 障害者福祉サービスの充実	75.0	55.3	A
	設29	問2-29 障害者福祉施設の整備	74.2	55.3	A
	設30	問2-30 セーフティネットの確保	71.2	55.7	B
	設31	問2-31 地域福祉・ボランティアの推進	71.6	55.5	B
生活・環境	設32	問2-32 人権尊重の社会づくり	69.2	58.0	B
	設33	問2-33 男女共同参画の推進	66.2	57.9	B
	設34	問2-34 公衆衛生の確保・環境美化	72.3	54.4	B
	設35	問2-35 ゴミ対策・リサイクルの推進	73.8	57.3	A
	設36	問2-36 地球温暖化対策	72.9	53.5	C
	設37	問2-37 自然環境の保全	74.3	53.6	C
安全・安心	設38	問2-38 災害等に備えた危機管理体制の構築	80.3	51.1	C
	設39	問2-39 地域防災活動への支援	76.5	53.8	C
	設40	問2-40 避難所等の整備	78.3	51.7	C
	設41	問2-41 消防体制の充実・強化	76.7	57.8	A
	設42	問2-42 救急体制の充実・強化	78.2	57.2	A
	設43	問2-43 火災予防の推進	74.8	57.5	A
	設44	問2-44 防犯・交通安全の確保	76.0	56.2	A
	設45	問2-45 消費者行政の充実	71.4	56.0	B
基盤	設46	問2-46 道路の整備	72.6	53.0	C
	設47	問2-47 港湾・漁港の整備	65.2	58.9	B
	設48	問2-48 防災対策（河川・急傾斜地）	74.2	54.1	C
	設49	問2-49 上水道の整備	71.1	60.2	B
	設50	問2-50 下水道の整備	70.3	56.5	B
	設51	問2-51 住宅・住環境の整備	68.1	57.0	B
	設52	問2-52 公園緑地の整備	64.0	55.4	B
	設53	問2-53 計画的な土地利用	69.7	51.1	D
	設54	問2-54 公共施設の再編・整備	69.9	52.8	D
	設55	問2-55 情報通信基盤の整備	71.8	52.3	D
	設56	問2-56 海上交通の確保・充実	79.7	48.9	C
	設57	問2-57 バス等の確保・充実	74.8	48.5	C
地域	設58	問2-58 都市との交流の促進	66.9	54.4	B
	設59	問2-59 定住促進策の推進	72.3	51.4	D
	設60	問2-60 自治会等の地域活動への支援	68.1	56.3	B
	設61	問2-61 国際化・多文化共生の推進	60.2	56.6	B
	設62	問2-62 地域活動拠点の整備	64.3	56.0	B
全市全問平均			72.4	54.2	

図 重要度・満足度の散布図



○Cは重要度が高く、市民生活に切実なものや、市民が重視しているものといえる。
○一方で満足度は低い
ため、施策・事業の積極的な実施や啓発・PRを図る。

○Dは重要度が低く、快適性など生活の+α的要素、関連する市民が限定的なものなどが考えられる。
○同時に満足度も低い
ため、施策・事業の再検討及び啓発・PRを図る。



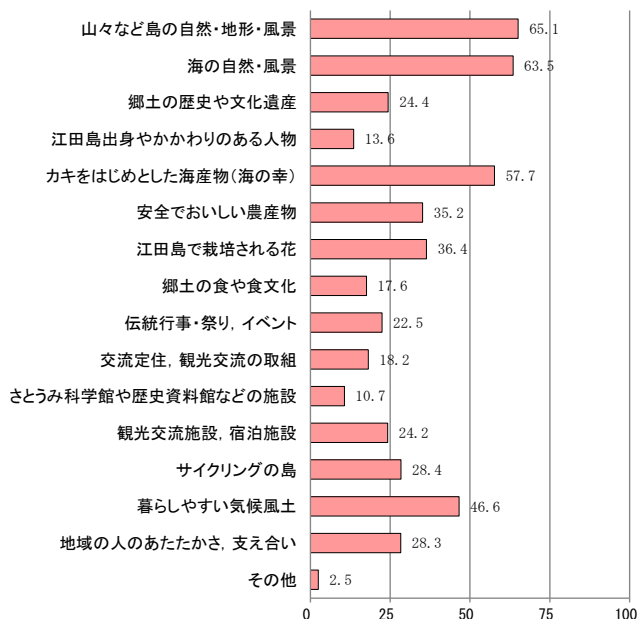
○Aは重要度が高く、市民生活に切実なものや、市民が重視しているものといえる。
○また、満足度も高い
ため、今後も施策・事業の継続・充実を図る。

○Bは重要度が低く、快適性など生活の+α的要素、関連する市民が限定的なものなどが考えられる。
○満足度は高い
ため、今後も施策・事業の継続・充実及び啓発・PRを図る。

2 自慢できるもの・こと、まちづくりに生かしたい資源

- 「島の自然・地形・風景」が65.1%、「海
の自然・風景」が63.5%、「カ
キをはじめとした海産物」が
57.7%と上位3番目までを占めて
います（複数回答）。

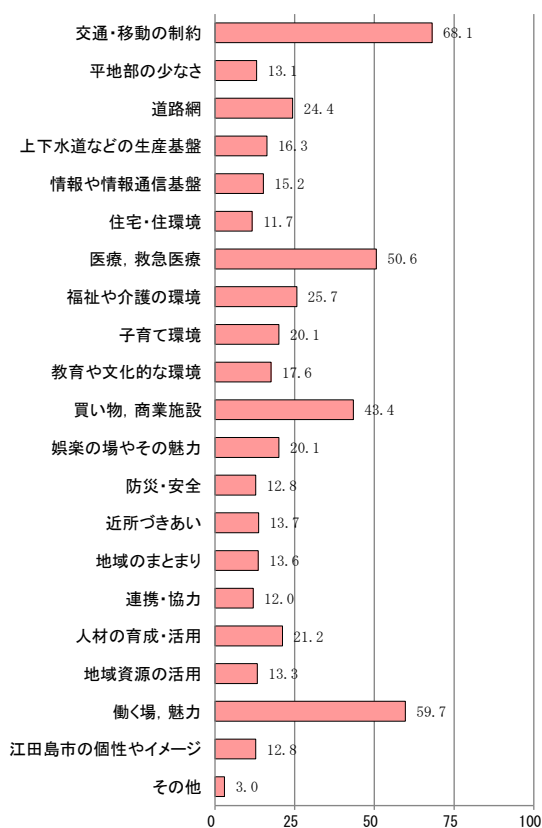
図 江田島市の自慢できるもの・ことなど



3 問題点

- 「交通・移動の制約」が68.1%、「働く
場、魅力」が59.7%、「医療、救急医療」
が50.6%と上位3番目までを占め、次い
で「買い物」も43.4%と多くなっていま
す（複数回答）。

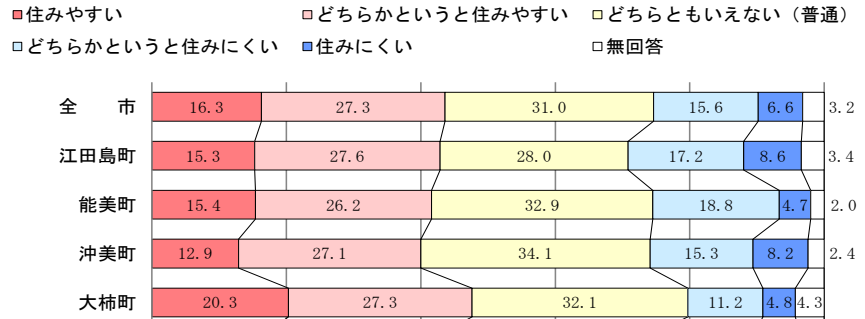
図 江田島市の問題点



4 江田島市の住みよさ

- 全市では、「住みやすい」(16.3%)と「どちらかというに住みやすい」(27.3%)を加えた43.6%がプラス的な評価といえます。一方、「住みにくい」(6.6%)と「どちらかというに住みにくい」(15.6%)を加えた22.2%がマイナス的な評価といえます。

図 現在の江田島市の住みよさ

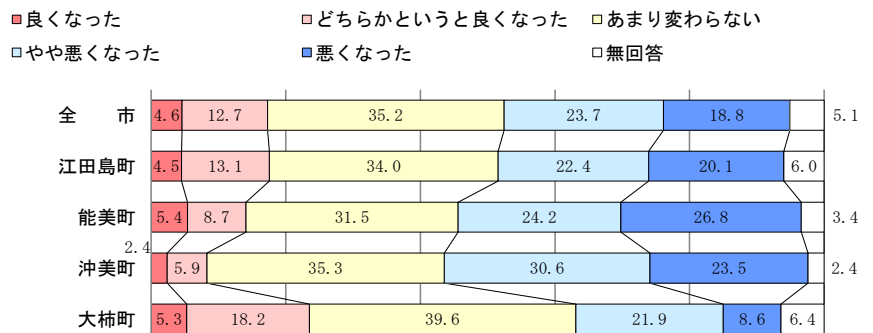


- なお「どちらともいえない(普通)」が31.0%を占めています。

5 江田島市のスタート時期(10年前)と比べた評価(良くなったかどうか)

- 全市では、「良くなった」(4.6%)と「どちらかというに良くなった」(12.7%)を加えた17.3%がプラス的な評価といえます。一方、「悪くなった」(18.8%)と「やや悪くなった」(23.7%)を加えた42.5%がマイナス的な評価といえます。

図 江田島市の全体的な評価

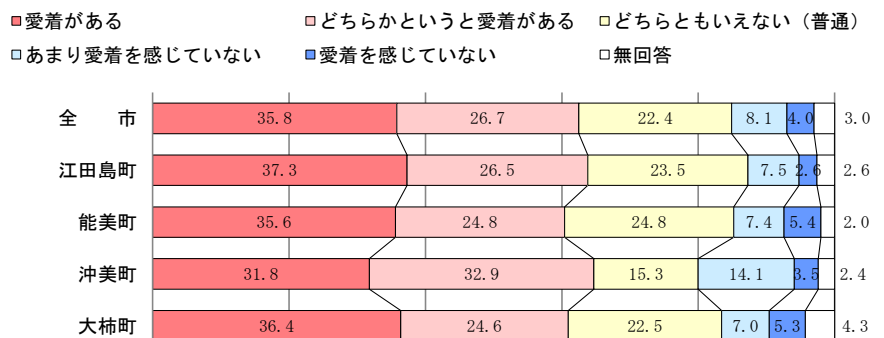


- なお「あまり変わらない」が35.2%となっています。

6 江田島市への愛着

- 全市では、「愛着がある」(35.8%)と「どちらかというに愛着がある」(26.7%)を加えると62.5%になり、一方、「愛着を感じていない」は4.0%、「あまり愛着を感じていない」は8.1%にとどまっています。

図 江田島市への愛着

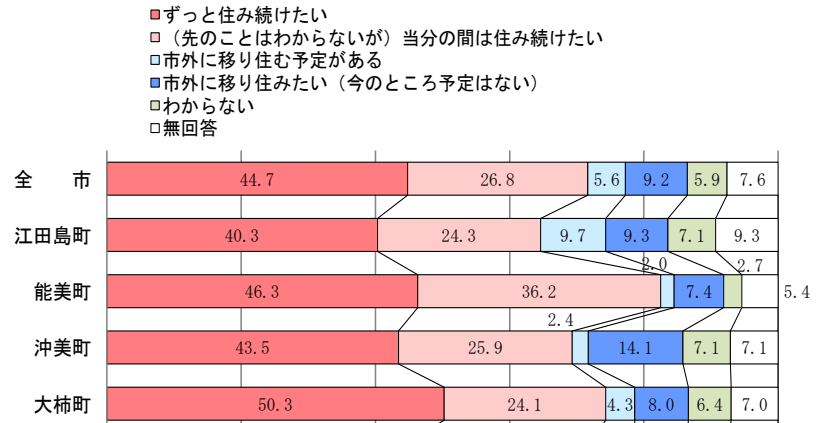


- なお「どちらともいえない」が22.4%となっています。

7 居住意向

- 全市では、江田島市に「ずっと住み続けたい」は44.7%、「当分の間は住み続けたい」は26.8%となり、一方、「市外に移り住みたい」は9.2%となっています。

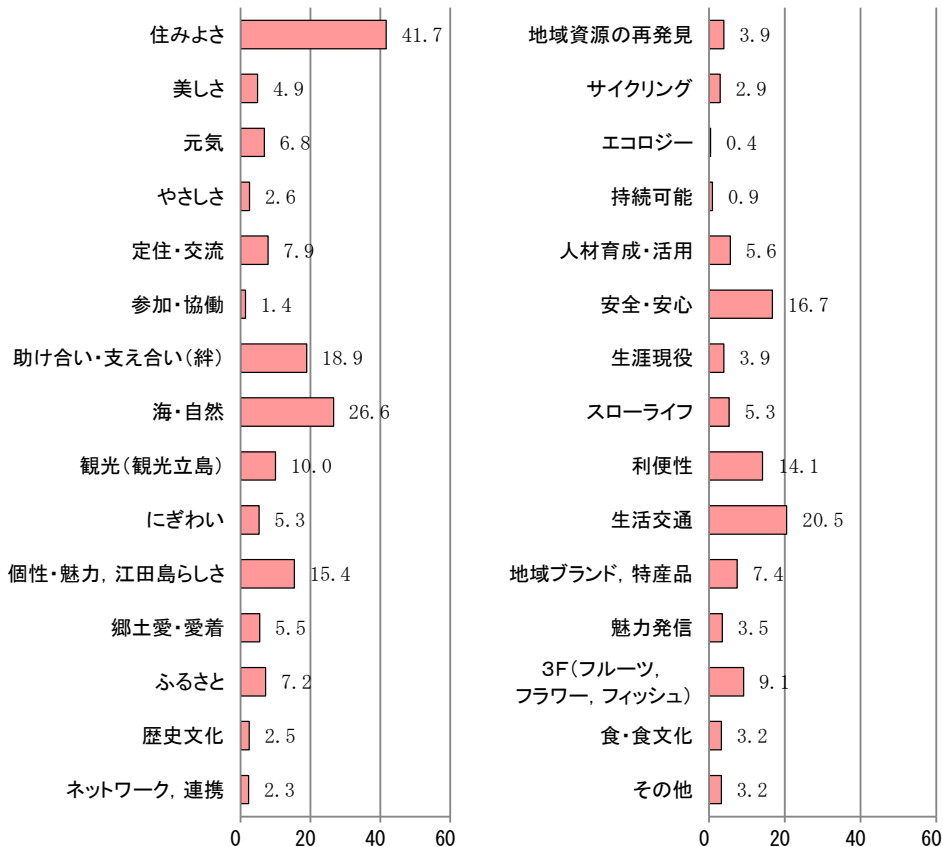
図 居住意向



8 これからのまちづくりのキーワード

- 「住みよさ」が41.7%と1番目となり、次いで「海・自然」(26.6%)、「生活交通」(20.5%)となっています。
- この他、「助け合い・支えあい」、「個性・魅力・江田島らしさ」、「安全・安心」、「利便性」が上位となっています。

図 これからのまちづくりのキーワード



第2次江田島市総合計画

平成27(2015)年3月

発行 江田島市

編集 江田島市企画部企画振興課

〒737 - 2392

広島県江田島市能美町中町 4859 番地 9

TEL : (0823) 40 - 2762 FAX : (0823) 40 - 2072

URL : <http://www.city.etajima.hiroshima.jp/>

E-mail : kikaku@city.etajima.hiroshima.jp

裏表紙